秋田市傳染病院規則　明治三十三年六月改正

第一條　本院ハ傳染病患者收容ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

第二條　本院ニ院長一名醫員藥劑員若干名ヲ置ク但狀況ニ依リ臨時市內ノ醫師又ハ藥劑員ニ委囑スルコトヲ得

第三條　院長ハ院內ノ醫務ヲ掌理シ醫師藥劑員看護人等ヲ指揮監督ス

但第二條但書ノ場合ハ本條ニ準シ便宜處理セシムルモノトス

第四條　本院ノ庶務會計ハ衛生係ヲ派シ之ヲ掌理セシム

派出員ハ院內ノ取締ヲ爲シ兼テ看守人小使等ヲ指揮監督ス

第五條　本院ニハ常ニ看守人ヲ置ク

第六條　入院患者ノ食費藥價ハ義務者ヨリ之ヲ徵收ス

秋田市傳染病院事務細則

第一條　本院ニ各掛ヲ置キ左ノ事項ヲ分掌ス

醫務係

一　患者ノ治療及豫防消毒ニ關スルコト

二　患者ノ食料ニ注意シ及看護夫ヲ指揮スルコト

調劑係

一　醫員ノ處方箋ニ依リ調劑スルコト

二　藥劑ニハ用法分量等詳記スルコト

事務係

一　院中一切ノ取締及看護夫小使等ノ進退ニ關スルコト

二　諸文書ノ往復及ヒ雜務ハ勿論會計一切ニ關スルコト

第二條　醫務係藥劑係ニ於テ必要ノ物品ハ院長認印ノ上事務係ニ請求スルモノトス

第三條　事務係ハ左ノ帳簿ヲ設備スヘシ

一　備品受拂簿

一　消耗品受拂簿

一　現金受拂簿

一　患者出入帳

一　同上計算簿

秋田市傳染病院患者取扱規定

一　本院ニ要スル備品消耗品費及役員給料ヲ除ク外經費ハ總テ患者ノ自辨トス

二　入院患者ノ自辨ニ係ル經費ハ一時市ニ於テ支拂ヲ爲シ追テ精算ノ上納付セシム

三　前項支拂ニ係ル患者一人別經費ハ事務係ニ於テ十日毎ニ計算シ收入役ヲ經テ市長ニ報告シ之ヲ其ノ家族ニ通達スヘシ

四　諸買上品ハ通常手續ニ依ルベシト雖モ不得已場合ニ限リ收入役ト協議ノ上市長ノ許可ヲ經テ直チニ買求ノ手續ヲ爲スコトヲ得

五　事務係ハ可成現金取扱ハサルヲ要スト雖モ不得止場合ニ限リ豫メ金額ヲ定メ市長經伺ノ上臨時取扱フコトヲ得

六　現金及物品ハ鎖鑰アル箪笥ニ藏置シ交代ノ時々ニ受渡ヲ爲スヘシ

七　患者處持ノ物件ハ總テ帳簿ニ明記シ之ヲ保管スヘシ

秋田市傳染病豫防委員事務細則　明治三十二年九月十三日

第一條　傳染病豫防委員ノ事務ハ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法及同年內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則ニ依ルヘシト雖トモ其ノ事務ノ概目左ノ如シ

一　不潔部落及傳染病發生セシ場所ヲ巡視シ隱蔽有無ヲ查察スルコト

二　交通遮斷中ノ家屋ヲ巡視シ病毒感染ノ有無ヲ查察スルコト

三　自宅療養患家ヲ巡視シ豫防消毒方法ノ適否ノ有無ヲ查察スルコト

四　傳染病患者ノ病因系統等ハ查察ノ上撲滅ノ方法ヲ講スルコト

五　飲料水ノ良否ヲ查察スルコト

六　時々傳染病院ヲ巡視シ豫防消毒方法及設備ノ適否ヲ查察スルコト

七　右ノ外豫防上必要ノ件

第二條　傳染病豫防委員ハ市長ノ指示ニ從ヒ事務ニ從事スヘシト雖トモ各委員ニ於テ檢疫豫防上協議ヲ要スル事項アルトキハ市長ニ協議會ヲ請求スヘシ

第三條　傳染病豫防委員ニ於テ臨時巡視ノ必要ヲ認メタルトキハ豫メ口頭或ハ書面ヲ以テ場所日時等ヲ市長ニ報告スヘシ

第四條　巡視シタル事項ハ翌日市長ニ報告スヘシ

但至急ノ件ハ即報スヘシ

秋田市看護婦養成所規則　市告示乙第三號

第一條　本所ハ善良ナル看護婦ヲ養成シ一般患者看護ノ需用ニ應セシムルヲ以テ目的トス

第二條　本所生徒ハ總テ授業料ヲ徴セス

第三條　本所生徒ハ滿十八年以上四十年未滿ニシテ修業期間家事ニ煩累ナク尋常小學校卒業以上ノ學力ヲ有シ品行方正体格強壯ニシテ左記一科以上試驗ニ及第シタルモノタルヘシ

但シ時宜ニ依リ市參事會ニ於テ履歷及品行査定ノ上直チニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一讀書　一書取　一作文　一算術

第四條　生徒定員ヲ十名トシ左ノ區別ニ依リ入學ヲ許可ス

一秋田市　二名

一他郡　八名

第五條　入學志望者ハ左ノ書式ニ據リ願書差出スヘシ

但シ出願期日及試驗日時等ハ市ニ於テ告示スヘシ

入學願

府縣郡市町村番地族戸主職業

誰何女

何ノ誰

生年月日

右看護婦志願ニ付貴所ヘ入學致度戸主同意ヲ得別紙履歴書相添ヘ此段相願候也

年　月　日

右　何　ノ　誰　印
戸主　何　ノ　誰　印

秋田市看護婦養成所
御中

第六條　秋田市入學生ニハ一人一ヶ月金三圓ノ手當ヲ支給ス

第七條　秋田市入學生ハ甲書式ニ依リ證書ヲ差出シ他郡入學生ハ乙書式ノ證書ヲ差出スヘシ

但保證人ハ相當資產ヲ有スル他ノ戸主ニ限ル

甲書式

在學證

印紙

秋田市町番地
何　ノ　誰
生年月日

右之者今般貴所ヘ入學許可相成候ニ付テハ左ノ條項堅ク相守可申候

一　御規則堅ク相守可申ハ勿論本人一身上ニ關スル諸件ハ一切保證人ニ於テ引受可申候事

一　卒業ノ上ハ五ヶ年間ハ必ス市内ニ定住シ御指定ノ給料ヲ以テ何時タリトモ御招集ニ應シ諸般患者ノ看護ニ從事可致候事

一　卒業ノ見込ナク又ハ不正ノ所爲アリテ退學ヲ命セラレ若シクハ自家ノ都合ヲ以テ退學仕候節ハ從來御給與ノ手當金一時ニ返上可仕事

秋田市看護婦養成所
御中

乙書式

在學證

印紙

右　何　ノ　誰　印
戸主　何　ノ　誰　印
保證人　何　ノ　誰　印

秋田縣郡町村番地
何　ノ　誰
生年月日

右之者今般貴所ヘ入學許可相成候上ハ御規則堅ク可相守ハ勿論一身上ニ關シ保證人ニ於テ一切引請可申候也

年　月　日

右　何　ノ　誰　印
保證人　何　ノ　誰　印

秋田市看護婦養成所
御中

第八條　本所修業期ハ六ヶ月トシ左ノ科目ヲ修業セシム

一　胸腹內臟ノ位置形狀大要

二　呼吸血行消化器能ノ大要
三　患者取扱ノ要旨
四　脈搏呼吸体温ノ計測法灌腸法カテーテル
五　各種傳染病ノ性質症候及傳染ノ要領
六　患者飲食物撰擇法大要
七　各消毒藥ノ性質及使用法
八　其他傳染病患者看護ニ必要ナル事項

第九條　修業末ニ於テ試驗ニ及第セル者ニハ得業證書ヲ授與ス

第十條　規則ニ違反シ職員ノ指導ニ服リ又ハ不品行ノ擧動アルトキハ退學ヲ命ス

第十一條　本則ニ伴ヒ必要ナル細則手續等ハ適宜市參事會ニ於テ之ヲ定ム

二　呼吸血行消化器能ノ大要
三　患者取扱ノ要旨
四　脈搏呼吸体温ノ計測法灌腸法カテーテル
五　各種傳染病ノ性質症候及傳染ノ要領
六　患者飲食物撰擇法大要
七　各消毒藥ノ性質及使用法
八　其他傳染病患者看護ニ必要ナル事項
第九條　修業末ニ於テ試驗ニ及第セル者ニハ得業證書ヲ授與ス
第十條　規則ニ違反シ職員ノ指導ニ戻リ又ハ不品行ノ擧動アルトキハ退學ヲ命ス
第十一條　本則ニ依ル必要ナル細則手續等ハ適宜市參事會ニ於テ之ヲ定ム

第八類　諸稅及稅外收入

秋田市市稅賦課徵收諸收入取扱規則

明治三十三年五月四日告示乙第二十六號
同三十八年四月十七日改正　同年十二月七日改正　同四十四年十月三十日改正　同四十五年三月一日追加　同卅九年三月卅一日改正

第一條　市稅ノ賦課徵收及諸收入（補助及交付金ヲ除ク）ノ取扱ハ總テ此規則ニ據ル
但小學校授業料ハ別段ノ規定ニ依ル

第二條　市稅ノ課目ヲ定ムル左ノ如シ

一　地租附加稅
二　所得稅附加稅
三　國稅營業稅附加稅
四　資藥營業稅附加稅
五　戶數割附加稅
六　縣稅營業稅附加稅
七　雜種稅附加稅
八　特別所得稅

第三條　市稅ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

地租附加稅（四月一日現在ニ依ル）四月二十日ヨリ同三十日マテ

所得稅附加稅

第一期二分五厘　九月二十日ヨリ同三十日マテ
第二期二分五厘　十一月二十日ヨリ同三十日マテ
第三期二分五厘　一月二十日ヨリ同三十一日マテ
第四期二分五厘　三月五日ヨリ同十五日マテ

國稅營業稅附加稅（四月一日現在ニ依ル）　第一期五分　五月二十日ヨリ同三十一日マテ
　第二期五分　十一月二十日ヨリ同三十日マテ

賣藥營業稅附加稅　第一期五分　七月二十日ヨリ同三十日マテ
　第二期五分　一月二十日ヨリ同三十一日マテ

戶數割附加稅（四月一日現在ニ依ル）　第一期五分　六月二十日ヨリ同三十日マテ
　第二期五分　十一月二十日ヨリ同三十日マテ

縣稅營業附加稅及雜種稅附加稅　第一期五分　七月二十日ヨリ同三十一日マテ
　第二期五分　一月二十日ヨリ同三十一日マテ

特別所得稅　第一期五分　十月二十日ヨリ同三十一日マテ
　第二期五分　一月二十日ヨリ同三十一日マテ

第四條　徵稅令書ハ納期十日以前ニ發スルモノトス
但新ニ納稅義務ヲ生シタル者ハ其時々十日以內ノ納期ヲ定メテ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第五條　書類ノ送達ヲ受クヘキ者其住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ若クハ其住所、居所共不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第六條　徵稅簿及徵稅令書ハ第壹號乃至第三號樣式ニ依リ調製スルモノトス

第七條　督促令狀ハ納期後十五日以內ニ發付スルモノトス
但督促令狀及送達書ハ第五號第六號樣式ニ依ル

第八條　滯納處分ニ依リ收入シタル稅金及裁判所ヨリ配當ヲ受ケタル稅金ハ第七號樣式ノ拂込書ヲ以テ收入役ニ拂込ノ手續ヲ爲スモノトス

第九條　主務係ハ每年度第八號樣式ノ市稅整理簿ヲ調製スヘシ

第十條　諸收入債權額決定シタル時ハ主務係ハ第九號樣式ノ收納簿ニ登記シ債務者ニ對シ第十號樣式ノ納入告知書ヲ發付シテ收入ノ手續ヲ爲スヘシ
但督促令狀手數料及戶籍ニ關スル手數料ハ第十一號樣式ヲ以テ納付セシムルモノトス

第十一條　吏員（收入役ヲ除ク）職務ニ依リ收入シタル現金ハ第七號樣式ノ拂込書ヲ以テ收入役ニ拂込ノ手續ヲ爲スモノトス
但拂込金額ノ說明ヲ要スルトキハ明細書ノ添付ヲ要ス

第十二條　納入者ニ於テ徵稅令書納入告知書拂込書等ニ現金ヲ添ヘ差出シタルトキハ收入役ニ於テ甲乙接續シタルモノハ彼是照合シ其他ハ市參事會ノ命令書ヲ照合シテ領收證ヲ交付スルモノトス

附　則

第十三條　本則ハ明治三十三年度ヨリ執行ス
但從前ノ規則又ハ命令ニシテ此規則ニ抵觸スルモノハ明治三十二年度限リ廢止ス

（第一號樣式）

徵稅簿

番號	第一期			第二期			摘要
	稅金	督促手數料	事故	稅金	督促手數料	事故	
			督促狀發送			督促狀發送	
			差押			差押	
			解除			解除	
			公告			公告	
			賣却			賣却	

住所氏名	事故	督促手數料	稅金	摘要
	督促狀發送			
	差押			
	解除			
	公告			
	賣却			

（第二號樣式）

徵稅令書

第　號

秋田市

第　期	明治　年度	一金
納		

右一金明治　年　月　日限リ秋田市收入役ヘ納付スヘシ

明治　年　月　日

秋田市長　氏名

（第三號樣式）

一金

右領收候也

秋田市收入役　氏名

第　號	明治　年度	第　期	一金
納			

（第四號樣式）

奉譯住金管保

第　號	明治　年度	第　期	一金
納			

（第五號樣式）

◎注意　滯納者ハ此督促狀ニ稅金ヲ添ヘ納付セラルヘシ
但シ徵稅令書ヲ要セス

督促狀

第　號　市稅　秋田市

明治　年度　第　期

一金　滯納稅金
一金　督促手數料

右金額此令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ當市收入役ヘ納付セラルヘシ若シ此期限ヲ過キ完納セサルトキハ直チニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ

明治　年　月　日　秋田市長　氏　名

領收書

第　號　市稅

明治　年度　第　期

一金　滯納稅金
一金　督促手數料

右領收候也

秋田市收入役　氏　名

保管金仕譯書

第　號　市稅

明治　年度　第　期

一金　滯納稅金
一金　督促手數料

（第六號樣式）

督促狀送達書

第　號	市稅	秋田市	
明治　年度		第　期	
一金　一督促狀壹通			
送達シタル時間場所	秋田市　月　日午後前　時　分	受取人ノ署名押印	
受取人ナキトキ若クハ受取人署名捺印ヲ拒ミ又ハ居所不明ニシテ送達シ能ハサルトキハ其事由			
右送達候也　使丁　明治　年　月　日			

書譯仕金管保

第　號	明治　年度	市稅	第　期
一金			

一金　拾錢

右領收候也

秋田市收入役　氏名

書譯仕金管保

第　號	明治　年度	便用料及手數料	督促手數料
一金　拾錢			

一金　拾錢

右領收候也

秋田市收入役　氏名

（第十一號樣式）

一金　拾錢

右拂込候也

明治　年　月　日

秋田市長　氏名

第　號	明治　年度	秋田市	便用料及手數料	督促手數料

（第七號樣式）

拂込書

一金　拾錢

右拂込候也

明治　年　月　日

秋田市長　氏名

第　號	明治　年度	市稅	第　期
			分

（第十一號樣式）

第　號	使用料及手數料	
明治　年度		手數料

一金　　件

右納付候也

秋田市

明治　年　月　日

納

第　號	使用料及手數料
明治　年度	手數料

一金　　件

右領收候也

秋田市收入役　氏　名

納

保管金仕譯書

第　號	使用料及手數料
明治　年度	手數料

一金　　件

明治　年　月　日

納

秋田市稅其他諸收入金滯促手數料條例

明治三十六年一月二十四日告示乙第一號

第一條　市稅其他諸收入金ノ滯納ニ係ルモノハ總テ此條例ニ依テ督促ス

第二條　前條ノ收入金其納期ヲ過キ完納セサルモノアルトキハ市參事會ヨリ直ニ督促令狀ヲ發スヘシ

第三條　滯納者督促令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ諸收入金ヲ完納セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ處分ス

第四條　督促令狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金拾錢ヲ徵收ス

第五條　本市以外ノ市町村ニアル滯納者ニ對シ督促令狀ヲ發シタルトキハ前條ノ外左ノ增手數料ヲ徵收ス

一　即夫ヲ以テスル場合　一里ニ金拾錢

一　郵便ヲ以テスル場合　金三錢

第六條　督促手數料ハ滯納金ト同時ニ徵收ス

第七條　本條例ハ發布ノ日ヨリ七日ヲ經テ施行ス

第八條　本條例施行以前ノ滯納者ニ對シテハ舊條例ヲ適用ス

秋田市特別所得稅條例

明治三十三年五月七日
告示乙第二十七號

第一條　本市ハ本條例ニ依リ特別所得稅ヲ賦課ス

第二條　特別所得稅ハ明治三十二年二月法律第十七號第三條第三種ノ所得ニシテ一ケ年三百圓未滿百五拾圓以上ノモノニ對シ左ノ稅率ニ依リ之レヲ賦課ス
但三ケ月以上滯在スルモノニシテ滯在ノ翌月ヨリ計算シ本條ノ所得金高ニ達スルトキハ亦同シ

貳百圓以上　三百圓未滿	千分ノ十
百五拾圓以上　貳百圓未滿	千分ノ七

戶主及其同居家族ノ所得ハ之レヲ合算シ其總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第三條　所得ハ明治三十二年二月法律第十七號第四條第三ノ定則ニ依リ之ヲ算定ス

第四條　左ニ揭ル所得ニハ特別所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ニ係ル俸給

二　扶助料及傷痍疾病者恩給

三　旅費學資金及法定扶養料

四　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

五　明治三十二年二月法律第十七號ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金

第五條　本條例ニ依リ納稅ノ義務アル者ハ每年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ市參事

會ニ申告スヘシ

但二條但書ニ該當スルモノハ其時々申告スヘシ

第六條　市參事會ハ每年納稅義務アリト認ムルモノヽ所得金額ヲ調査シ其調査書ヲ製シテ前條ノ屆書ト共ニ調査委員會ニ附スヘシ

第七條　每年一月市會ニ於テ市會議員中ヨリ調査委員七名ヲ選擧シ本稅ニ關スル調査ヲナサシム但調査委員中市議員ノ職ヲ失フトキハ同時ニ調査委員ノ職ヲ失フ此場合ニ於テハ之レヲ閉ク會議ノ手續ハ明治三十二年二月法律第十七號第二十七條第二十八條第二十九條ヲ適用ス

第八條　調査委員會ハ市長ノ通知ニ依リ之レヲ閉ク會議ノ手續ハ明治三十二年二月法律第十七號第二十七條第二十八條第二十九條ヲ適用ス

第九條　市參事會及調査委員ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第十條　調査委員會ニ於テ納稅義務者ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ市參事會之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十一條　納稅義務者市參事會ノ通知シタル所得金額ニ對シ異議アル時ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ市參事會ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得

第十二條　前條ノ請求アリタルトキハ審査委員ハ調査委員三名市參事會員二名ヲ以テ組織ス

審査委員會ハ調査委員ヨリ選擧セラレタルモノ二名市參事會員ヨリ選擧セラレタルモノ一名出席スルニアラザレバ開會スルコトヲ得ス

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第十三條　調査委員會又ハ審査委員會不成立ノ場合ハ市參事會代リテ其職務ヲ行フ

第十四條　納稅義務者ハ第十一條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖トモ通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ稅金ヲ納ムベシ

第十五條　納稅義務アルモノ所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ市參事會ニ申出所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得

但其年十二月三十一日ヲ過クルトキハ此限リニアラズ

第十六條　前條請求アリタルトキハ市參事會ハ其所得金額ヲ調査シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ其所得金額ヲ更訂セス

第十七條　特別所得稅ハ年額ヲ二分シ其年十月及翌年一月ニ之レヲ徵收ス

但納期前市外ニ轉籍スルトキハ其際月割ヲ以テ徵收ス

第十八條　所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ市制第六十四條二項ノ五號ニ依リ所分ス

第十九條　所得金ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ其逋稅ヲ追徵ス

但自首スル者ハ其科料ヲ免ス

第二十條　科料所分ヲナスニハ市參事會ヨリ金額及納付期日ヲ定メテ令狀ヲ發スルモノトス

附　則

第二十一條　本條例ハ明治三十三年分ヨリ之ヲ適用ス

第二十二條　本條例施行以前市會ニ於テ選舉シタル調査委員ハ本條例第七條ニ依リタルモノト見做ス

過怠金徴收規定

明治三十二年三月一日市會決議
同年三月十日告示乙第十號

市制ニ依リ市ノ金庫ニ收入ス可キ過怠金ハ納付書交附後二十日ヲ限リ納付ス可シ

秋田市小學校授業料徴收規則

明治四十二年四月一日ヨリ施行

第一條　秋田市小學校授業科尋常科第五、六學年兒童一人ニ付キ一ケ月金五拾錢、高等科兒童一人ニ付キ一ケ月金三拾錢、保護者又ハ代理人ヨリ徴收ス

第二條　市外ヨリ通學スルモノ又ハ本市ノ戸數制ヲ負擔セサルモノ、家族ニ對シ授業料尋常科第五、六學年兒童金壹圓ヲ保護者又ハ代理人ヨリ徴收ス

第三條　一家二人以上ノ兒童同時ニ在學スル時ハ其上學年兒童一人ヨリ授業料金額ヲ徴收シ其他ハ半額ヲ徴收ス

第四條　授業料ハ其月十五日前ニ入學スル者及十六日後ニ退學スル者ハ金額其月十六日後ニ入學スルモノ及十五日前ニ退學スルモノハ半額ヲ徴收ス

第五條　貧窮ノ爲メ授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ其事實ヲ調査シ減額又ハ免除ヲ爲スコトヲ得

第六條　第五條ニ依リ半額以下ニ減セラレタルモノ第三條ニ該當スルトキハ其他ノ者ハ之ヲ免除ス

第七條　第二條ニ對シテハ第三條、第五條、第六條ヲ適用セス

秋田市高等小學校授業料徴收手續

明治三十六年三月三十一日
廳達第九號改正

第一條　授業料徴收ニ關スル帳簿及納額告知書ハ賦課係ニ於テ別紙第一號乃至第三號樣式ニ依リ調製スルモノトス

第二條　賦課係ハ每學年ノ始メニ於テ授業料額ヲ調定シ之ヲ收納簿ニ登記シ收入役ニ交付スルモノトス

第三條　授業料調定ニ要スル就學兒童調幷ニ爾後ノ增減調ハ其都度敎育係ヨリ賦課係ヘ交付シ賦課係ハ收納簿若クハ納額告知書ノ更訂ヲ通知スルノ手續ヲナスヘシ

但兒童增減調ハ翌月三日限リ之ヲ回付スヘシ

第四條　授業料納額告知書ハ每月一日現在（一月ハ前年十二月二十日現在）ニ於テ調査ノ上其月十日迄ニ發送スルモノトス

第五條　授業料ノ納期ハ每月二十日限リトス但シ休日ハ繰下トス

一號

第　高等小學校第　學年　秋田市　町

生徒　納入人

月別	授業料額	領收月日	月別	授業料額	領收月日
分	円 厘	月 日	分	円 厘	月 日
分			分		

二號（收納簿計樣式）

四月分計

本例ニヨリ分計及合計ヲ調査スベシ

年月日	調定額	減額	收入額	未納額	摘要
三十年四月十日	五〇〇〇	○印徵稅係			
同年同月二十日			一〇〇〇	○印徵稅係	
			二〇〇〇	○印會計係	
			五〇〇〇		何某外何名分

三號

高等小學校 第　學年 第　號	兒童名	納
		人

一金　　月分授業料

右明治　年　月二十日限リ納附スヘシ

明治　年　月　日　秋田市長　氏　名

高等小學校 第　學年 第　號	兒童名	納
		人

一金　　月分授業料

右正ニ領收候也

明治　年　月　日　秋田市收入役　氏　名

秋田市手數料條例

明治三十六年五月三十日
告示乙第六號

第一條　市制第八十九條同第九十一條ニ依リ本市ニ手數料條例ヲ設ク

第二條　手數料ヲ徵收スヘキ種類及金額左ノ如シ但法律命令ニ依リ取扱フモノハ此限リニアラス

一	職業ニ關スル證明	一件ニ付金拾錢
一	納稅ニ關スル證明	同上
一	資格ニ關スル證明	同上
一	公課ニ關スル證明	同上
一	土地建物ニ關スル證明	同上
一	印鑑證明	同上
一	身分ニ關スル證明	同上
一	雇人證明	同上
一	公簿及圖面ノ閱覽	一件ニ付金五錢

但公簿一回一冊圖面ハ一回一枚トス

第三條　證明及閱覽ハ公衆ニ示スモ差支ナキ事項ニ限ル

第四條　本手數料ハ證明及閱覽ヲ請フ際之ヲ徵收ス

第五條　左ノ各號ニ該當スルモノハ手數料ヲ徵收セズ

一　兵役ニ關シ證明及閱覽ヲ要スルモノ

二　公費ヲ以テ救助ヲ受ケ居ル者ノ及救助ヲ受クルカ爲メ證明及閲覧ヲ要スルモノ

第六條　本條例ハ許可ヲ受ケ發布ノ日ヨリ起算シ七日ヲ經テ施行ノ期限トス

秋田市手數料徴收手續　明治三十六年五月

第一條　各係ニ於テ手數料條例第一條ノ證明請求書ヲ受理シ又ハ口頭ヲ以テ簿冊書類ノ閲覧ヲ請求スルモノアルトキハ第一號樣式ノ手數料收入簿ニ登記シ市長ノ認印ヲ得テ第二號樣式ノ納額告知書ヲ請求人ニ交付スヘシ

第二條　證明書ヲ下付シ又ハ簿冊書類ヲ閲覧セシムルハ手數料收入ノ後ニスヘシ

第三條　手數料收入簿ハ其年度内各係各一冊トス

第四條　收入役ニ對スル手數料ノ收入命令ハ收入簿ヲ以テ代用ス

第一號樣式　用紙美ノ半紙

手數料收入簿

市長又ハ代理者印	番號	月日	手數料	收入月日	摘要	住所氏名
㊞	二	何月何日	一〇〇	何月何日	何々證明	
				何々閲覧	……	……

第二號樣式　幅六寸五分　丈四寸五分

第　號	年　度	何々手數料

一金何程

右納付候也

年　月　日

住所

氏名

第　號

年度　何々手數料一氏　所名

一金何程

右領收候也

年　月　日

收入役

秋田市水道使用料及手數料條例

明治四十四年二月
秋田市告示乙第二號

第一條　秋田市水道給水使用料及手數料ハ本條例ニ依ル

第二條　專用放任給水使用料ハ一戸内二栓以内ニシテ人口五人迄一ケ月金六拾錢トシ以上壹人ヲ加フル毎ニ金六錢壹栓ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增徵ス

第三條　公設共用放任給水使用料ハ一戸人口五人迄一ケ月金貳拾錢トシ以上壹人ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ增徵ス

但本額ヲ納ムルニ堪エスト認ムルモノハ參事會ニ於テ減免スルコトヲ得

私設共用放任給水使用料ハ壹戸五人迄一ケ月金三拾錢トシ以上壹人ヲ加フル毎ニ金四錢ヲ增徵ス

第四條　專用計量給水使用料ハ使用高一ケ月百石迄金壹圓トシ以上壹石ヲ加フル毎ニ金八厘ヲ增徵ス

但洗湯業ノ用水ハ使用高貳百石迄金壹圓貳拾錢トシ以上壹石ヲ加フル毎ニ金五厘ヲ增徵シ庭園用水ハ同拾石迄金參拾錢トシ以上壹石ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ增徵ス

第五條　私設消火栓演習ノ爲メ給水スル使用料ハ一回ニ付金五拾錢トス

但一回ハ二十分時ヲ限リトス

第六條　專用給水ニ據ラシムヘキモノニシテ特ニ公私設共用栓ニ據リ給水ヲ許シタル時ノ使用料ハ計量給水ニアリテハ使用高一ケ月百石迄金五拾錢トシ以上壹石ヲ加フル毎ニ金四厘ヲ增徵シ放任給水ニアリテハ使用高一ケ月金四拾錢トシ以上壹人ヲ公設共用ハ壹戸五人迄一ケ月金四拾錢トシ以上壹人ヲ

加フル毎ニ金五錢ヲ增徵シ私設共用ハ一戶五人迄一ケ月金五拾錢トシ以上壹人ヲ加フル毎ニ金六錢ヲ增徵ス

但計量給水ノ場合ハ其水量ヲ認定ス

第七條　放任給水使用者ガ現ニ牛馬ヲ飼養スルトキハ一ケ月壹頭付ニ專用ハ金拾五錢共用ハ金拾錢ヲ徵收ス

但第六條ノ場合ハ專用ニ準ズ

第八條　公益ノ爲メ一時給水スルモノハ其使用料ヲ徵收セサルコトアルヘシ

第九條　市外ニ給水スル場合ノ使用料ハ總テ本條例ニ定ムル料金ノ百分ノ五十ヲ增徵ス

第十條　放任給水ヲ使用セントスルモノハ現在ノ人口及牛馬數ヲ明記シテ屆出ツベシ爾後異動ヲ生シタルトキハ其都度直チニ屆出ツベシ

但人口ハ老幼婢僕ノ別ナク現在スルモノヽ數ヲ算ス

第十一條　放任給水使用料ハ一ケ年度ヲ左ノ四期ニ分ツ每期初月一日現在ノ人口及牛馬數ニ依リ其月末日迄ニ之ヲ徵收ス其期間內ハ異動アルモ之ヲ增減セサルモノトス

但給水ヲ開始廢止シタルトキノ使用料ハ月割ヲ以テ隨時之ヲ徵收ス

第一期　自四月一日　至六月三十日　第二期　自七月一日　至九月三十日

第四期　自一月一日　至三月三十一日　第三期　自十月一日　至十二月三十一日

新ニ給水スル使用料及栓ノ增加ニ對スル增徵金ハ其月十五日以前ハ全月分十六日以後ハ半ケ月分ヲ徵收シ給水ヲ止ムルトキハ其月十五日前後ニ拘ラス全月分ノ使用料ヲ徵收ス

減栓ノ場合モ亦同シ

給水廢止又ハ減栓ノ場合ニ於テハ其ノ翌月以後ニ係ル既收ノ使用料ハ使用者ノ請求ニヨリ之ヲ還付シ若シ三ケ月以內ニ請求ヲ爲サヽルトキハ其權利ヲ拋棄シタルモノト見做シ還付セザルモノトス

工事用其他一時ノ給水ニ係ルモノヽ使用料ハ隨時之ヲ徵收ス

天災事變其他止ムヲ得サル場合ニ於テ給水ヲ停止シタル日數連續十五日以上ニ及フトキハ日割計算ヲ以テ其使用料ヲ減額スルモノトス

第十二條　給水ノ種類ヲ變更シタル月ノ使用料ハ日割計算ヲ以テ徵收ス

第十三條　計量給水使用料ハ翌月ニ於テ前月分ヲ徵收ス

官衙、公署、學校、兵營等ノ使用料ノ納期ハ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第十四條　計量給水ヲ開始又ハ廢止シタル月ノ使用料ハ使用日數十六日以上ナルトキ使用高百石迄金壹圓トシ十五日以內ナルトキ使用高五十石迄金五拾錢トシ以上壹石ヲ加フル每ニ金八厘ヲ增徵ス

但洗湯業ノ用水及庭園用水ノ使用料ハ第四條但書ニ規定セル使用高及料金ノ割合ヲ以テ此例ニ準シ算定ス

第十五條　量水器點檢ノ際破損其他ノ故障ニ依リ水量ノ指點明確ナラサルトキハ前回ノ點檢ヨリ量水器ノ修繕又ハ改造ヲ終ルマデノ間消費水量ハ最近三ケ月ノ平均消費高ニ依リ日割ヲ以テ計算ス

第十六條　量水器試驗ノ結果百分ノ五以上ノ差異アリト認メタルトキハ其割合ヲ以テ使用

料徴收未濟ニ係ル消費水量ヲ訂正ス

第十七條　量水器ノ使用料及試驗手數料ハ左ノ如シ

	試驗手數料
量水器使用料　壹ヶ月	
徑八分ノ三吋　金弐拾錢	金壹圓
徑二分ノ一吋　金弐拾參錢	金壹圓弐拾錢
徑四分ノ三吋　金弐拾五錢	金壹圓五拾錢
徑一吋　金三拾五錢	金弐圓
徑四吋　金弐圓五拾錢	金五圓

第十八條　量水器ノ使用料ハ給水使用料ト共ニ試驗手數料ハ隨時之ヲ徴收ス

但試驗手數料ハ其試驗ノ結果百分ノ五以上ノ差異アルトキハ之ヲ徴收セサルモノトス

私有ノ量水器ハ試驗ノ結果ニ拘ラス試驗手數料ヲ徴收ス

新ニ量水器ヲ使用シタルトキノ使用料ハ其月十五日以前ハ全月分十六日以後ハ半月分ヲ徴收ス

第十九條　給水栓設置ノ請求ヲ取消シタルトキハ設計手數料トシテ金三拾錢以上壹圓以下ヲ徴收ス

第二十條　給水停止ノ處分ヲナシタル場合ト雖モ其期間内ニ屬スル使用料ハ之ヲ減免セス

第二十一條　給水使用者ハ給水ヲ他人ニ分與又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二十二條　共用栓ニ使用スル鍵又ハ鑑札ヲ貸借スルコトヲ得ス

第二十三條　私設消火栓ハ常ニ本市ニ於テ之レヲ封印シ火災ノ時若クハ本市ノ許可ヲ得テ

演習ニ使用スル時ノ外猥リニ開栓スルコトヲ許サス火災ノ爲メ開栓シタルトキハ直チニ本市ニ届出ツヘシ

第二十四條　量水器ハ本市ニ於テ指定シタル吏員ノ外開閉若クハ之ニ觸ルヽコトヲ得ス

第二十五條　水道吏員ニ於テ午前八時ヨリ午後五時迄ノ間ニ家屋内ノ給水用具ヲ檢査センストスルトキハ給水使用者ハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一期分ノ給水使用料百分ノ五十以内ヲ增徴スルコトアルヘシ

一、第二十七條一號ニ該ル者

二、給水使用料、手數料ヲ期限内ニ完納セサル者

三、故意又ハ不注意ニ依リ給水ヲ目的以外ニ使用シ又ハ濫用シタル者

四、本市ノ承認ヲ受ケスシテ給水用具ヲ修繕變更シ又ハ改造シタル者

第二十七條　何人ヲ問ハス左ノ事項ニ該當スルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一、第十條ノ届出ヲ爲サス又ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ

二、第二十一條乃至第二十五條ニ違犯シタルトキ

三、共用栓ニ使用スル鍵又ハ鑑札ヲ携帶セスシテ汲水シ若クハ模造ノ鍵又ハ鑑札ヲ使用シタルモノ

附　則

第二十八條　本條例ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

但從來ノ條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

共用給水使用料減免調査内規　明治四十五年一月二十日　達第一號

一、共用給水使用料減免ニ關スル會議書類ハ處務規定ニ依リ關係課係ノ合議ヲ經タル外更ニ之ヲ調査委員會ノ諮問ニ付スヘシ

一、調査委員會ハ左ノ七名ヲ以テ組織シ助役ヲ以テ委員長トス

助役、第四課長、賦課係一名、徴收係一名、會計係一名、庶務係二名

一、調査員ハ前項各係ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

但上席者事故アルトキハ順次之ニ代ルモノトス

一、調査會ノ意見ハ之ヲ會議書類ニ附シ市長裁決ノ參考ニ供ス

一、調査會ノ意見ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

一、第三課長及取扱主任者ハ調査會ニ出席シ其説明ニ任ス

秋田市水道給水使用料減免内規

明治四十一年八月十一日
市參事會決議參第五一〇號

第一條　本市條例第三條規定ノ共用給水使用料ヲ納ムル事能スシテ減免出願ノ者ハ其事實ヲ調査シ戸數割附加稅年額金弐圓未滿ノ者ニ限リ納額ノ四分ノ一、二分ノ一、四分ノ三ノ三等ニ區別シ是ヲ減額シ又ハ其全額ヲ免除ス

第二條　前條免除出願ノ者ト雖モ其事實調査ノ結果減額ニ變更スルコトアルベシ

秋田市水道使用料手數料其他收入金徴收規程

明治四十年七月十九日市會決議　同四十二年二月改正
同四十四年二月改正

第一條　此規程ニ於ケル使用料手數料其他收入金トハ左ノ種類ヲ云フ

一　給水使用料
二　量水器使用料
三　量水器試驗手數料
四　給水工費收入
五　量水器及鑑札鍵辨償金

第二條　放任給水使用料ハ毎月二十日ヨリ末日迄之ヲ徴收ス

第三條　一家ノ人員ハ總テ現住スルモノヽ數ヲ徴收ス
但宿泊セスシテ常務ニ從事スル者ハ弐人ヲ以テ壹人ニ算ス

第四條　量水器使用料ハ給水停止ノ場合ト雖モ貸附中ハ之ヲ徴收ス

第五條　量水器ヲ毀損シタルトキハ使用者ニ辨償セシム
但避クベカラサル火災非違ニ原由スルカ又ハ自然破損シタルモノハ此限ニ非ス

第六條　量水器ノ試驗手數料ヲ徴收スル場合ハ併セテ工費ノ實費ヲ徴收ス

第七條　毀損亡失等ニ依リ鑑札及鍵ノ再渡ヲ請求スル者アルトキハ鍵ハ一個ニ付金五錢ヲ徴收ス

第八條　給水工費ハ給水規則ニ於テ規定シタルモノヽ外總テ之ヲ前徴ス

但其工事緊急ト認ムルトキハ此限ニアラス

第九條　納額告知書ハ納期七日前ニ於テ之ヲ發シ督促令狀ハ納期十五日以内ニ發付スルモノトス

第十條　徴收簿及納額告知書ハ第一號乃至第十一號書式ニ據ル

（第一號樣式）

納額告知書

第　號	秋田市　納
明治　年度	給水工費收入	即納工費

一金

秋田市　番地給水工費

右金額明治　年　月　日迄本市收入役ヘ納付スヘシ

明治　年　月　日　秋田市長　氏　名

領收書

第　號	秋田市　納
明治　年度	給水工費收入	即納工費

一金

秋田市　番地給水工費

右領收候也

秋田市收入役　氏　名

納票

第　號	秋田市　納
明治　年度	給水工費收入	即納工費

一金

（第二號樣式）

第　號	明治　年度給水工費收入月賦工費第　回分	秋田市
納		

秋田市收入役　殿

金額	一金　　圓也
右ハ秋田市番地給水工費分納金ニ付領収候也	

明治　年　月　日

秋田市收入役氏名　㊞

（第二號樣式）

第　號	明治　年度給水工費收入月賦工費第　回分	秋田市
納		

秋田市收入役　殿

金額	一金　　圓也
右ハ秋田市番地給水工費分納金ニ付領収候也	

明治　年　月　日

秋田市收入役氏名　㊞

（第三號樣式）

第　號	明治　年度給水工費收入修繕工費	秋田市
納		

秋田市收入役　殿

金額	一金　　圓也
右ハ秋田市給水工費分納金ニ付領収候也	

明治　年　月　日

秋田市收入役氏名　㊞

（第三號樣式）

第　號	明治　年度給水工費收入修繕工費	秋田市
納		

秋田市收入役　殿

金額	一金　　圓也
右ハ秋田市給水工費分納金ニ付領収候也	

明治　年　月　日

秋田市收入役氏名　㊞

（第四號樣式）

納額告知書

第號	秋田市		納
明治 年度	使用料	計量給水使用料	月分

一金　給水使用料
一金　量水器使用料
計金

右金額明治　迄本市收入役へ納付スヘシ

明治　年　月　日　秋田市長　氏　名

領收書

第號	秋田市		納
明治 年度	使用料	計量給水使用料	月分

一金　給水使用料
一金　量水器使用料
計金

右領收候也

秋田市收入役　氏　名

納票

第號	秋田市		納
明治 年度	使用料	計量給水使用料	月分

一金　給水使用料
一金　量水器使用料
計金

（第五號樣式）

納額告知書

第號	秋田市		納
明治 年度	使用料	放任給水使用料	隨時收入　期分

一金　專用栓

右金額明治　年　日　日迄本市收入役へ納付スヘシ

明治　年　月　日　秋田市長　氏　名

領收書

第號	秋田市		納
明治 年度	使用料	放任給水使用料	隨時收入　期分

一金　專用栓

右領收候也

秋田市收入役　氏　名

納票

第號	秋田市		納
明治 年度	使用料	放任給水使用料	隨時收入　期分

一金　專用栓

（第六號樣式）

領収証書

第	號	秋田市	明治	年度使用	料金	給水使用料	期分	納

一金　　圓也

右領収候也

秋田市収入役　　印

共用栓

名

通知書

第	號	秋田市	明治	年度使用	料金	給水使用料	期分	納

一金　　圓也

右金額明治　年　月　日迄本市収入役へ納付スヘシ

秋田市長　　印

共用栓

名

（第七號樣式）　即納、修繕其他ノ工費徴収簿

第　號	番號	種類	徴収金種類	発付月日	工費	納入月日	摘要	住所氏名
	第　號	給水栓番號		年　月　日	圓	年　月　日		秋田市　番地
			（新設）（修繕）（改造）（變造）（撤去）					

第八款　水道使用料、手數料其他收入金徴収規程

（第八號樣式）

分納費徵收簿

第　號	給水個所	秋田市　番地
一金　精算高 一金　割增金 計	住所氏名	秋田市　番地

但　自明治　年　月　回月賦
　　至明治　年　月

發付月日	金員	回數	納入月日	發付月日	金員	回數	納入月日	發付月日	金員	回數	納入月日
月日		回		月日		回		月日		回	
月日		回		月日		回		月日		回	
月日		回		月日		回		月日		回	
月日		回		月日		回		月日		回	
月日		回		月日		回		月日		回	

（第九號樣式）　計量給水量徵收簿（甲）

栓第　號	水栓所在	秋田市
貸量器付水	時個	所有者
	時個	

使用者	秋田市

月別	消費水量	料金	領收月日	量水器使用料	領收月日
四月分	石	円	月日	円	月日
五月分					
六月分					
七月分					
八月分					
九月分					

（第十號樣式）

計量給水料徴收簿（乙）

水栓番號	第　栓　號
所有者	
使用者	

月別	消費水量	料金	月別	消費水量	料金	月別	消費水量	料金
四月	石	月日領收 圓	八月	石	月日領收 圓	十二月	石	月日領收 圓
五月		月日領收	九月		月日領收	一月		月日領收
六月		月日領收	十月		月日領收	二月		月日領收

十月分	十一月分	十二月分	一月分	二月分	三月分	合計

七月			十一月			三月		
		月 日領收			月 日收領			月 日領收
水量合計			料金合計					
		石					円	

（第十一號樣式）

放任（專用 共用）給水料徵收簿

第一號	給水管所在及所有者	町 番地	給水使用者住所氏名	町 番地
第一期	常住人口 通勤人口 牛馬數 水栓	円	第二期	常住人口 通勤人口 牛馬數 水栓
第二期	常住人口 通勤人口 牛馬數 水栓	円	第三期	常住人口 通勤人口 牛馬數 水栓
第三期	常住人口 通勤人口 牛馬數 水栓	円	第四期	常住人口 通勤人口 牛馬數 水栓

秋田市納稅督勵規程　明治四十四年八月八日

第一條　諸稅公課金ノ滯納ヲ豫防シ納稅ノ成績ヲ擧クル爲メ市内ニ納稅區ヲ設ケ區ニ一人又ハ數人ノ納稅督勵委員ヲ置ク

第二條　納稅督勵委員（以下單ニ委員ト記ス）ハ市參事會ヨリ區内（納稅區ヲ云フ以下同シ）納稅者中ノ重立者ニ之ヲ囑托スルモノトス

第三條　委員ハ常ニ納稅上諸般ノ事ニ注意シ區内ノ納稅者ヲシテ納稅義務ヲ嚴守シ納期限内完納セシムル樣努ムルモノトス

第四條　委員ハ前條ノ目的ヲ達スルカ爲メ左ニ掲クル事項ヲ取扱フモノトス

一、市役所ヨリ國縣市稅其他公課金ノ納稅告知書徵稅令書納入告知書發付ノ通知ヲ受ケタルトキハ納稅者ニ就キ其納期限ヲ告知シ失期セシメザル樣注意スル事

二、納期限内納稅者ニ對シ其納否ヲ聞キ糺シ未納者ヲ奬勵シテ失期セシメサル事

三、市役所ヨリ督促狀發付ノ通知ヲ受ケタルトキハ滯納者ヲシテ指定ノ期間内ニ納付セシムル樣注意スル事

四、隨時市役所ニ出頭シテ區内ノ滯納者ヲ取調ベ又ハ市役所ノ通知ニヨリ速ニ納付セシムル樣盡力スル事

五、市吏員滯納處分執行ニ際シ立會人ヲ要スル場合其他徵收上必要ノ場合ハ相當利便ヲ與フル事

六、區内納稅者中轉住者アルトキハ其時日及轉住先ニ注意シ又賦課物件及賦課標準等ニ異動アルトキハ便宜市役所ニ報知スル事

七、前各號ノ外特ニ指示セラレタル事項

第五條　委員ハ徴收事務ニ關シ意見アルトキハ市長ニ具申スルコトヲ得

第六條　委員ハ必要ニ應シ市役所ト協商ノ上納稅上便宜ノ方法ヲ設ケ納稅ヲ容易ナラシムルノ措置ヲ講スルモノトス

第七條　市參事會ハ委員ニ對シ其成績ニ依リ手當金ヲ給ス

第八條　本規程ノ納稅區ハ當分本市火災豫防組合ノ區域ヲ以テ其區域トス

徴收係外勤吏員勤務規程

明治四十四年七月三十一日
廳達第一四號

第一條　徴收係外勤吏員ハ明治四十三年一月廳達第三號市役所處務規程ニ依ルノ外本規程ニ依リ勤務スヘシ

第二條　外勤吏員ノ勤務時間ハ明治二十八年十二月廳達第四號一般執務時間ニ依ルノ外時間外及休日ニ勤務セシムルコトアルヘシ

第三條　外勤吏員ハ主任ノ命令ヲ受ケ及ヒ監督ノ指揮ニ從ヒ勤務スルモノトス

第四條　外勤吏員ノ擔當區ハ市長ノ決裁ヲ得テ第四課長之ヲ定ム但吏員ノ擔當替ハ課長之ヲ命ス

第五條　外勤吏員ヲ甲乙二部ニ分チ甲部ハ其年度ノ收入乙部ハ過年度收入ノ徴收ニ從事スルモノトス

第六條　甲乙二部ニ監督各一人ヲ置ク

監督ハ主任以下ノ高級者ヲ以テ之ニ充ツ但シ便宜主任ヲシテ之ヲ兼チシムルコトヲ得

第七條　主任ハ毎月二回以上各區ヲ巡視シ監督以下ヲ指導督勵シ徴收ノ成績ヲ擧ケシムヘシ但監督ノ狀況ハ監督日誌ニ記載シ市長ニ報告スヘシ

第八條　監督ハ毎週一回以上各區ヲ巡視シ外勤吏員ヲ指導督勵シ徴收ノ成績ヲ擧ケシメ且ツ左ノ事項ヲ視察スヘシ但監督ノ狀況ハ監督日誌ニ記載シ市長ニ報告スヘシ

一、徴收上不注意又ハ怠慢ノ措置ナキヤ否

一、徴收上寬嚴其當ヲ得ルヤ否

一、日々指示セラレクル事項ヲ忠實ニ實行シ居ルヤ否
一、前日ノ指示ト其復命又ハ報告ノ實績ト符合シ居ルヤ否
一、滯納處分ノ執行方其當ヲ得ルヤ否
一、服務心得ヲ遵守シ居ルヤ否
一、前各號ノ外監督上必要ト認ムル事項

第九條　外勤吏員ノ徴收戸數ハ注意督促財産差押ヲ併セ一人一日左ノ數ヲ下ルコトヲ得ス

甲部　二十五戸
乙部　十五戸

但正當ノ理由ナクシテ本文ノ戸數ヲ下ルトキハ休日ニ之ヲ補充セシムヘシ

第十條　外勤吏員ハ税金其他諸收入金ノ納期限切迫スルモ納付ナキ者ニ對シ期限内納付スヘキコトヲ注意スヘシ

第十一條　外勤吏員ハ督促令狀ヲ發付シタルトキハ直チニ擔當區内ノ滯納者ヲ滯納處分簿ニ登載シ滯納者督促令狀期限後ノ催告ハ二回以内ニ止メ猶ホ納入セサルモノハ直チニ滯納處分ヲ執行スヘシ

第十二條　滯納處分ヲ執行セントスルトキハ最モ愼重周密ニ滯納者ノ財産ヲ調査シ差押ベキ財産ノ撰擇ニ注意シ缺損ノ生セサル樣考慮スヘキハ勿論可成運搬保管公賣ニ便利ナルモノヲ差押フベシ

第十三條　外勤吏員ハ當日ノ收納金及差押物件ヲ帳簿ニ記載シ之ヲ主任ニ引渡ス可シ注意又ハ催告ヲ爲シタルモノハ督促令狀送達書ニ要領ヲ記入シテ

主任ノ檢印ヲ求メ翌日ノ豫定地其他日誌相當欄ニ勤務事項ヲ記載シ市長ノ閲覧ニ供スヘシ

完納又ハ處分結了シタルトキハ直ニ滯納處分簿ヲ整理シ督促令狀送達書ニ整理濟ノ旨ヲ記シ之ヲ主任ニ提出スヘシ

第十四條　無財産及居所不明等ニテ欠損トナスヘキモノハ復命簿ニ其事由ヲ詳記シ市長ノ決裁ヲ受クヘシ

第十五條　差押物件ハ滯納者又ハ第三者ニ保管ヲ爲サシムルハ妨ナシト雖モ必要ト認ムル場合ハ直チニ之ヲ運搬スヘシ

差押物件ヲ運搬スルトキハ他區擔當吏員ト共同シテ運搬ヲナスコトヲ得

第十六條　外勤吏員ハ擔當區内ノ滯納者ニシテ他管内ニ轉住シタルモノアルトキハ徴收處分囑托簿ニ記載シ主任ニ提出スヘシ

市内ニ於テ他ノ擔當區内ニ轉住シタルモノアルトキハ當該區擔當吏員ニ通知スヘシ

第十七條　主任ハ毎月外勤吏員ノ事務成績表ヲ作リ市長ニ報告スヘシ

徴收係外勤吏員服務心得　明治四十四年七月三十一日

第一條　滯納處分ハ國稅徴收法ニ據リ執行スルモノナルヲ以テ常ニ同法及關係法規ヲ研究シ執務上差閊ナキヲ期スヘシ

第二條　凡ソ執務ニ當リテハ宜シク嚴正ニシテ温和ナル言容ヲ失ハサルヘシ若シ無禮失言其他粗暴ノ擧動ヲ爲ス者ニ遭遇スルモ激シテ憤怒シ膽シテ逡巡スルカ如キ行爲アルヘカラサルハ勿論益々靜穩ノ態度ヲ取リテ適當ノ處置ヲ爲シ不得止場合ニアラサレハ警察官ヲ煩ハサヽルコトニ厚ク注意スヘシ

第三條　財產差押ハ滯納者ノ生活ノ程度及所有財產ノ全般ヲ觀察シ措置愼重用意周到ナルヘシト雖モ繁苛ニ過キ冗煩ニ失シ又ハ時間ヲ空過スル結果ヲ見ルニ至ルカ如キコトナキヲ期スヘシ

第四條　滯納處分ハ財產ノ調查ヲ爲スヲ以テ自然人ノ機密ヲ知得スルモノナリト雖モ職務上ニ要スル外之ヲ他人ニ漏洩スヘカラスクルカ如キコトアルヘカラス又清廉純潔ヲ守リ品操ヲ高クシ他人ノ指摘ヲ受第五條　執務中納稅者其他個人ノ邸宅ニ於テ猥リニ餘事ヲ談シ又ハ喫茶飮食スル等ノ所爲アルヘカラス

第六條　取調ノ結果作ルヘキ無財產ノ調書ハ納稅義務ノ消滅ヲ告クル唯一ノ證明ナルヲ以テ左記事項ノ調查ニ遺漏ナキ樣注意スヘシ

一、滯納者住居以外ノ地ニ所有財產ナキヤ否

二、質權ノ設定セラレタル動產ナキヤ否

三、財産ヲ代渡又ハ預入レタルモノナキヤ否

四、債權ノ有無並ニ天然又ハ法定果實ノ引渡ヲ受クヘキモノナキヤ否

五、財産ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ契約ヲシタル等ノ形跡ナキヤ否

第七條　住居不明ニシテ處分ヲ中止シタルトキハ前條ト等シク納稅義務消滅スルモノナルヲ以テ隣佑若シクハ親族其他ニ就キ取調ヘヲ爲シ尙所在不明ナルトキハ警察官署ニ就キ調査シ本人ノ所在及遺留財産ノ有無ニ付テハ時々周到ナル調査ヲ爲スヘシ

第八條　財産差押ニ臨ミタルトキハ滯納ノ原因及滯納者一家ノ生活狀況並ニ課稅及處分ニ關スル滯納者ノ感情ニ留意スヘシ

第九條　前條ノ觀察ハ當日差押處分執行上ノ措置ニ付キ必要タルノミナラス他日納稅義務ニ對スル觀念ヲ喚起シ滯納ヲ防止スル一般方法ヲ講スル材料タルヘキモノナルヲ以テ常ニ其要領ヲ記憶シ其事由氏名ヲ詳記シ市長ニ申告スヘシ

第十條　前各條ノ外執務ノ際体面ヲ傷フヘキ外觀荒イ舉動アルヘカラス

三、財産ヲ貸渡又ハ預入レタルモノナキヤ否

四、債權ノ有無並ニ天然又ハ法定果實ノ引渡ヲ受クヘキモノナキヤ否

五、財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚僞ノ契約ヲシタル等ノ形跡ナキヤ否

第七條　住居不明ニシテ處分ヲ中止シタルトキハ前條ト等シク納稅義務消滅スルモノナルヲ以テ隣佑若シクハ親族其他ニ就キ取調ヘヲ爲シ尚所在不明ナルトキハ警察官署ニ就キ調査シ本人ノ所在及遺留財産ノ有無ニ付テハ時々周到ナル調査ヲ爲スヘシ

第八條　財産差押ニ臨ミタルトキハ滯納ノ原因及滯納者一家ノ生活狀況並ニ課稅及處分ニ關スル滯納者ノ感情ニ留意スヘシ

第九條　前條ノ觀察ハ當日差押處分執行上ノ措置ニ付キ必要タルノミナラス他日納稅義務ニ對スル觀念ヲ喚起シ滯納ヲ防止スル一般方法ヲ講スル材料タルヘキモノナルヲ以テ常ニ其要領ヲ記臆シ其事由氏名ヲ詳記シ市長ニ申告スヘシ

第十條　前各條ノ外執務ノ際体面ヲ傷フヘキ外觀荒イ與動アルヘカラス

第九類　土木

秋田市道路橋梁及溝渠修築規則

第一條　市費ヲ以テ修理保存スヘキ道路橋梁溝渠ハ本則ノ規定ニ據ル

第二條　道路橋梁溝渠ノ箇所ヲ指定シ特ニ修築ヲ要スルカ爲メ金員夫役物件等ヲ寄付セントスル者及自費ヲ以テ修築セントスル者ハ市參事會ヘ出願許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ市ハ其經費ノ幾分ヲ支出スルコトアルヘシ

第三條　道路橋梁及溝渠自費修築ノ許可ヲ受ケタル者ハ着手及竣工トモ市長ヘ届出ヘシ

第四條　前條届出アル時ハ市長ハ係員ヲ派シ其工事ヲ監督檢査シ不都合アルトキハ改修セシムルモノトス

第五條　道路橋梁ヲ保存スルカ爲メ道路看守人一名ヲ置キ其勤務ニ關スル規定ハ市參事會之ヲ定ム

第六條　道路橋梁溝渠ノ小破ニシテ保存上修理ヲ要スルモノ及急破ニシテ一時手當ヲ要スルモノハ市長ニ於テ道路看守人ニ命シ修理若シクハ手當セシムルモノトス

秋田市道路監守人勤務規程　明治三十年四月二日

第一條　道路監守人ハ勸業係ニ屬シ其監督ヲ受ケ勤務ニ從事スベシ但時宜ニ依リ區長ヲシテ其指揮ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二條　監守人ノ勤務時間ハ毎日午前八時ヨリ午後五時マテトシ毎區順次ニ巡視スベシ但場合ニ依リ時間外ト雖トモ勤務ニ從事セシムルコトアルベシ

第三條　監守人ハ毎日道路橋梁及溝渠等ヲ巡視シ小破損ノ箇處或ハ破損ノ虞アル箇處ハ一時相當ノ手當ヲ爲シ大破ニ至ラシメサル樣注意スヘシ

第四條　監守人ハ道路橋梁及溝渠等ニ木石塵芥等投棄シアリテ往來運搬及疏通ニ妨害アリト認ムルトキハ直ニ之ヲ取除クヘシ

第五條　監守人ハ大雨或ハ洪水等ノ際ハ特ニ巡視シテ道路橋梁ノ破損流失ヲ豫防シ溝渠ノ疏通ニ注意スヘシ

第六條　第三條乃至第五條ノ場合ニ於テ人足或ハ其他ノ經費ヲ要スル事アルトキハ所屬係ヘ申出其指揮ヲ受クベシ

第七條　監守人ハ道路橋梁及溝渠等修繕或ハ浚渫等ヲ要スル箇處ヲ取調所屬係ヘ報告スヘシ

第八條　監守人ハ巡視ノ際旭川及其同便所ニ注意シ不潔ノ箇所アルトキハ主務係ヘ通報スヘシ

第九條　監守人病氣其他止ヲ得サル事故アリ勤務ニ從事スル能ハサルトキハ適當ナル代人ヲ定メ所屬係ヘ屆出ッヘシ

第十類　水道

秋田市水道給水規則

明治四十四年四月二十六日
廳達第十號

第一章　通　則

第一條　給水ノ方法ヲ分テ左ノ二種トス

一　放任給水　水量ヲ計ラスシテ給水スルモノ

二　計量給水　水量ヲ計リテ給水スルモノ

第二條　給水ノ設備ヲ分テ左ノ二種トス

一　專用栓　一家獨立シテ專用スルモノ

但本市ノ承認ヲ受ケ聯合專用栓ヲ設クルコトヲ得

二　共用栓　數家共同シテ使用スルモノ

第三條　給水ノ目的ヲ分テ左ノ六種トス

一　家事用水　飲料、饗炊、洗濯、沐浴ノ類總テ家事用ニ供スルモノ

二　營業用水　各種ノ營業及職業用ニ供スルモノ

三　庭園用水　噴水、池泉、庭園、撒水其總他テ娛樂用ニ供スルモノ

四　工事用水　工事其他ノ爲メ一時使用スルモノ

五　消火用水　火災消防ニ使用スルモノ

六　公衆用水　途上公衆ノ飲料ニ供スルモノ

本條給水種類ノ決定ハ市ノ認ムル所ニ據ル

第四條　給水ハ左ノ方法設備ニ據リ之ヲ施行ス

一　家事用水ハ專用栓又ハ共用栓ニ據ラシメ放任給水トス
但專用栓ニ據ル給水ハ本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ計量給水法ニ據ラシムルコトアルベシ
二　官衙、公署、兵營、學校、病院、諸會社又ハ集會等ノ給水ハ家事用ト雖トモ專用栓ニ據ラシメ總テ計量給水トス
三　營業用水、庭園用水ハ專用栓ニ據ラシメ總テ計量給水トス
四　第三條第一項二號ノ營業及職業ヲ營ムモノハ家事用ト雖トモ專用栓ニ據ラシメ總テ計量給水トス
五　工事用水ハ專用栓ニ據ラシメ計量給水トス
六　消火用水ハ專用消火栓ニ據ラシメ放任給水トス
本條第一項第二號乃至第五號ニ該當スルモノニシテ本支水管ノ布設ナキ個所ニ住スルトキ又ハ營業用若クハ一時ノ給水ニ限リ量水少量ト認ムルトキハ特ニ共用栓ニ據ラシムルコトアルベシ
第五條　計量法ニ據ル給水ハ總テ量水器ヲ使用セシム
但消費水量ノ豫定シ得ヘキモノハ特ニ量水器ヲ用キス本市ノ認定ニ依リ水量ヲ定メ給水スルコトアルベシ
第六條　一戸構內ニ放任給水ト計量給水トヲ併置スルコトヲ得ス
但庭園用水及消火用水ハ此限ニアラス
第七條　一戸構內ニ目的及給水料ヲ異ニスル二個以上ノ量水器ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條　目的又ハ給水料ヲ異ニスル二種以上ノ給水ヲ併用シ量水器ヲ區別セザルモノハ料金ノ高キモノニ據ラシム
但家事用水ト洗湯業ノ用水トヲ併用スル場合ハ洗湯業用水ニ據ラシム
第九條　給水ハ晝夜供給スト雖モ天災事變又ハ水道ノ破損檢查等止ムヲ得サル場合及公益上必要ヲ生シタルトキハ一時給水ヲ中止シ又ハ給水時間及水量ヲ制限スルコトアルベシ
此場合ニ於テ生スル損害ニ對シ市ハ其責ニ任セス
但本條ノ場合ハ豫メ告知スヘシト雖モ事急劇ナルトキハ此限ニアラス
第十條　水道又ハ給水管若クハ給水用具ノ破損其他ノ事故ニ依リ給水使用者又ハ公衆ニ損害ヲ及ホスコトアルモ市ハ賠償ノ責ニ任セス
第十一條　留水栓公設消火栓其他邸宅外ニアル水道器具ハ本市ノ指定シタル者ノ外何人タリトモ開閉若クハ之レニ觸ルヽコトヲ得ス
第十二條　給水ノ廢止ヲ爲サントスルトキハ本市ニ屆出ツベシ
第十三條　給水使用者住所ヲ移轉シ若クハ改氏名又ハ代替等ノ場合ハ直ニ本市ニ屆出ツベシ
第十四條　專用給水使用者ハ給水管及給水用具ノ破損又ハ漏水其他給水上異狀ヲ生シタルトキハ速カニ本市ニ屆出ツベシ共用給水使用者ハ亡失ニ係ル鑑札及鍵ヲ發見シタルトキハ現品ヲ添ヘ直ニ本市ニ屆出ツベシ
第十五條　給水使用者ハ本市ヨリ交付スル標識ヲ其門戶ニ掲クヘシ

第十六條　共用栓附近ニ於テ洗濯其他汲水ニ妨害トナル所業ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　水量ニ剰餘アル場合ニ限リ本市外ニ給水スルコトヲ得

但水量ニ不足ヲ生シタル場合ハ之ヲ制限シ又ハ停止シ若クハ廢止スルコトアルベシ

第二章　專用給水栓

第十八條　自己ノ土地又ハ家屋ニ給水栓ヲ設ケ專用給水ヲ受ケントスル者ハ本市ニ請求スヘシ借地又ハ借家人ニ於テ給水ヲ受ケントスル者ハ地主又ハ家主ト連署シテ本市ニ請求スベシ

給水栓ノ修繕模樣替撤去移轉增設等ノ場合モ亦第一項ニ同シ

第十九條　他家專用ノ給水管ヨリ分岐シテ給水栓ヲ設置セントスルモノ及聯合專用栓ヲ設ケントスルモノハ双方連署ヲ以テ本市ニ請求スベシ

第二十條　專用給水栓及私設消火栓設置ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ要スル給水及給水用具ハ本市ニ於テ調製設備シ其工費及器具ノ代價ハ左ノ計算方法ニ依リ其負擔ヲ定ム

一　專用給水栓ヲ設置スル工費及器具ノ代價中細管ヲ本支水管ニ連結スル分水栓及該栓ヨリ留水栓迄ノ間ニ係ル細管ハ本市ノ負擔トス

但一戸構內一線ヲ限ルモノトス

二　同上本支水管ニ接續スル細管ノ留水栓ヨリ邸宅內ヘ布設スル細管及其屬具ハ請求者ノ負擔トス

但留水栓ノ位置ハ道路ノ側端二尺以內ニ設クルモノトス

三　私設消火栓ヲ設置スル工費及器具ノ代價ハ請求者ノ負擔トス

修繕、模樣替、撤去、移轉及增設ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ依ル

第二十一條　本支水管ノ布設ナキ個所ニ於テハ給水栓設置ノ請求ヲ拒絕スルコトアルベシ

但請求者ニ於テ本支水管又ハ之ニ代ルヘキ給水管ノ代價及工費ヲ負擔スルトキハ此限ニアラス

第二十二條　給水栓設置ノ請求ヲ受ケタルトキハ本市ニ於テ實査設計ヲ遂ケ給水工費概算書ヲ調製シ之ヲ請求人ニ通知シ工費額四分ノ一以上ヲ豫納セシメタル上工事ヲ執行ジ竣成ノ上精算シ其殘額ヲ一時ニ徵收ス

官衙、公署、兵營、官公立學校等ノ請求ニ係ル工費ハ工事執行ノ後一時ニ徵收ス

請求者本條第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ豫納工費ヲ納付セザルトキハ其請求ヲ取消シタルモノト見做ス

第二十三條　給水工費ハ一時ニ納付シ能ハザルモノハ本市ノ承認ヲ得テ二十四ケ月以內ニ於テ月賦又ハ數回ニ分チ納付スルコトヲ得

但私設消火栓ハ此限ニアラス

本條ニ據ル給水工費ニハ每月金工費ノ二百分ノ一ノ割增ヲ爲スモノトス

分納ノ承認ヲ得タルモノハ連帶責任ノ保證人連署ノ上分納證書ヲ差出ス可シ保證人ハ本市ニ居住シ一ケ年直接國稅拾圓以上ヲ納メ本市ノ承認ヲ得タルモノニ限ル

保證人ニ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ第三項ノ手續ヲ爲スベシ

第二十四條　給水栓ノ修繕、模樣替、撤去、移轉及增設等ノ場合ハ事急ナルトキノ外該工費全部ヲ前納スルニアラザレハ工事ヲ執行セザルモノトス

但官衙、公署、兵營、官公立學校等ノ請求ニ係ルモノハ此限ニアラス

既設ノ外更ニ一線ヲ布設スルモノ、工費ハ第二十三條及本條ノ例ニ依ル本條第一項ノ前納工費ハ工事竣成ノ後精算シ過剰アレハ還付シ不足アレハ追徴ス

第二十五條　給水工費ノ皆納前給水管及給水用具ヲ賣買讓與又ハ撤去セントスルトキハ其未納ニ係ル工費ハ一時ニ之ヲ徴收ス

但本市ノ承認ヲ得テ其儘之ヲ繼續スルコトヲ得

變災其他ノ事故ニ因リ給水管及給水用具ヲ毀損亡失スルモ其未納ニ係ル工費ハ之ヲ徴收ス

第二十六條　給水管及給用具ハ給水工費皆納ニ至ル迄其所有權ハ本市ニ屬スルモノトス

但其間ハ使用者管理ノ責ニ任ス

第二十七條　給水工費ノ納付ヲ怠リタルトキハ給水管及給水用具ヲ撤去シ既納ニ係ル工費ハ之ヲ還付セス若シ既納ノ工費ニシテ撤去費並ニ材料價額ノ缺損ヲ償フニ足ラサルトキハ更ニ其差金ヲ徴收ス

第二十八條　給水管及給水用具ノ撤去ヲ請求スルモノアルトキハ請求者所有ノ部分ハ之ヲ交付ス

但撤去ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

分岐給水栓ヲ有スルモノニアリテハ本管所有者給水栓ノ撤去ヲ爲サントスルトキハ豫メ分岐給水栓所有者ニ通知スヘシ此場合ニ於テ分岐給水所有者本管取得ノ手續ヲ爲サヽルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス

第二十九條　給水栓ノ所有者所在不明ニシテ適當ナル管理者ヲ置カサルトキ又ハ正當理由ナクシテ六ケ月以上給水ヲ使用セサルトキハ本市ハ其給水管ヲ切斷シ若クハ請求ニ依ラスシテ給水管及給水用具ヲ撤去スルコトアルヘシ

撤去シタル給水管及給水用具ノ引渡ヲ請求シタルモノハ撤去ノ費用及未納ノ工費ヲ一時ニ納付スヘシ撤去ノ日ヨリ一年以內ニ前項ノ請求ナキモノハ其所有權ハ本市ニ歸屬スルモノトス

第三十條　給水管又ハ給水用具ニシテ本市ニ於テ必要ト認メ修繕若クハ改造ヲ命スルモ所有者ニ於テ之ヲ怠ルトキハ市ニ於テ工事ヲ執行シ即時其費用ヲ徴收ス

第三十一條　私設消火栓ハ防火ノ爲メ公設消火栓ト同一ノ使用ヲナスコトアルヘシ此場合ニ於テハ所有者之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十二條　給水工事施行ノ爲メ發掘シタル漆喰庭園其他特別ノ裝置ヲ要スルモノノ復舊工事ハ請求者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十三條　給水管及給水用具ヲ賣買讓與セントスルトキハ當事者連署シ三日前ニ届出テ本市ノ承認ヲ受クヘシ自己ノ所有ニアラサル給水栓ニ撮リ給水ヲ使用セントスルトキ亦同シ

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ豫メ本市ニ届出ツヘシ

一　閉栓ヲ要スルトキ

二　開栓ヲ要スルトキ

三　給水ノ方法目的ヲ變更スヘキ事由ヲ生シタルトキ

第三十五條　演習ノ爲メ私設消火栓ヲ使用スルモノハ水道吏員ノ立會ヲ得使用方法及時間ノ制限其他必要ナル事項ニ關シテハ其指揮ニ從フヘシ

第三十六條　量水器ハ本市ニ於テ之ヲ裝置シ別ニ定ムル所ノ使用料ヲ徵收ス

但其据付工費ハ使用者ノ負擔トス

第三十七條　私有量水器ヲ使用セントスルモノハ本市ノ試驗承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ別ニ定ムル所ノ手數料ヲ徵收ス

第三十八條　水道吏員ハ隨時量水器ヲ點檢シ給水量點檢簿ニ每回其消費シタル水量ヲ記載シ之ヲ使用者ニ交付スヘシ

若シ點檢ノ際破損其他ノ事由ニ依リ水量ノ指點明確ナラスト認メタルトキハ其旨給水量點檢簿ニ附記スヘシ

第三十九條　使用者ニ於テ量水器ノ作用ニ疑ヲ懷キ試驗ヲ求ムルトキハ使用者立會ノ上之ヲ試驗シ以テ終局ノ決定トス

第四十條　量水器ヲ亡失毀損シタルトキハ其修繕費又ハ價額ノ全部ヲ使用者ニ辨償セシムル場合ハ前項ノ義務ヲ免除スルコトアルヘシ

但天災又ハ不可抗力ニ原因スル場合ハ此限ニ在ラス

第三章　共用給水栓

第四十一條　公設共用栓ハ一家專用栓ヲ設クル能ハサルモノヽ爲メ本市ニ於テ適宜其位置ヲ定メ市費ヲ以テ之ヲ設置ス

第四十二條　公設共用栓ニ據リ給水ヲ使用セントスルモノハ本市ニ請求シ鑑札及鍵ノ交付ヲ受クヘシ鑑札及鍵ハ汲水ノ際必ス携帶スヘシ

第四十三條　自己所有ノ土地又ハ家屋ニ住居スル者給水使用ヲ請求セントスルトキハ其貸價額及直接國稅納額ヲ屆出ツヘシ

前項屆出ノ貸貸價額ニシテ若シ不相當ト認ムルトキハ本市之ヲ査定ス

第四十四條　自己所有ノ土地又ハ家屋ニ住居スル者ニシテ左ノ資格ノ一ヲ有スルモノハ共用給水使用者タルコトヲ許サス

一　一ケ年直接國稅七圓以上ヲ納ムルモノ

但同居家族ノ稅額ハ之ヲ合算ス

二　貸貸價額一ケ月七圓以上ノモノ

第四十五條　前條ノ資格ニ該當スルモノト雖モ居住六ケ月以上ニ渉ラサルモノ又ハ本支水管ノ布設ナキ個所ニ住スルモノ若クハ已ムヲ得サル事情アリテ設備ヲ爲シ難キモノハ調査ノ上特ニ共用栓ニ依リ給水ヲ使用セシムルコトアルヘシ

第四十六條　公設共用栓ニ據リ給水ヲ使用スルモノ第四十四條ニ揭クル資格ヲ有スルニ至リタルトキハ直ニ本市ニ屆出ツヘシ

第四十七條　私費ヲ以テ私設共用栓ノ設置ヲ請求スルモノアルトキハ調査ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十八條　私設共用栓ニ關シテハ公設共用栓及專用給水栓ノ規定ヲ準用ス

第四章　犯違者處分

第四十九條　給水使用者ニシテ左記各項ニ該當スルモノアルトキハ給水ヲ停止ス

一　本市水道使用料及手數料條例第二十六條各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ同第二十一條

乃至第二十五條ニ違背シタルトキ

二　給水工費給水使用料及手數料其他水道ニ關スル諸納金ヲ指定ノ日限内ニ納メサルトキ

第五十條　前條給水ノ停止ハ違背ノ廉ヲ釐正シ本市ニ於テ不都合ナシト認ムルトキハ之ヲ解除ス

第五十一條　給水使用者ノ家族及雇人ノ行爲ニ關シテハ使用者其責ニ任スルモノトス

附　則

第五十二條　本則施行ノ手續ハ市參事會ニ於テ之ヲ定ム

第五十三條　本則ハ發布ノ日ヨリ七日ヲ經テ之ヲ施行ス

從來ノ規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

秋田市水道給水規則施行手續

明治四十四年六月
市告示乙第十二號

第一條　規則（秋田市水道給水規則ヲ云フ）第三條第二號ニ該當スル營業及職業種類ノ概目左ノ如シ

一　醸造業
一　洗濯業
一　下宿屋
一　貸座敷
一　五十集商
一　菓子製造業
一　漬物製造業
一　麹製造業
一　青物業
一　豆腐製造業
一　石工業
一　製糸業
一　織物工業場
一　染物業
一　理髪店
一　牛馬宿
一　飴製造業
一　素麺及麩餅製造業
一　蒟蒻製造業
一　鳥獣肉販賣業
一　植木業
一　飲食店（第一種）
一　ラムネ製造業
一　白玉製造業
一　洗湯業
一　宿屋
一　料理屋
一　薬種販賣業（藥局ノ設備アルモノ）
一　鍛冶業
一　印刷業
一　紙漉業
一　餅製造業
一　生魚販賣業
一　鰹物業
一　粉類製造業
一　石鹸製造業
前項ノ外工業場製造業其他ノ職業及營業ニシテ使用水量多量ト認ムルモノ

第二條　規則第四條第一號但書ニ依リ計量給水ニ據ラシムヘキ者ノ種類概要左ノ如シ

一　開業醫師（但病室ノ設備ヲ爲シタルモノ）
一　演劇場

一　人寄席　一　圖書館
一　銀行　一　遊戲場

第三條　專用給水栓ヲ設置セントスル者ハ第一號書式ニ依リ請求スヘシ
他家專用ノ給水管ヨリ分岐シテ給水栓ヲ設置セントスル者ハ第二號書式ニ依リ請求スヘシ

第四條　給水栓設置請求者給水工費概算額ノ通知ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ工費四分ノ一ヲ納付スヘシ但工費月賦又ハ分納ノ承認ヲ得タルモノニアリテハ第七號書式ニ依リ承諾書ヲ差出ス可シ

第五條　給水工費ヲ一時ニ納付シ能ハサル者ハ給水栓設置請求書(第一號書式)ニ其旨ヲ記載シ承認ヲ受クヘシ

第六條　給水工費ノ月賦納又ハ分納ノ承認ヲ得タル者ハ第五號書式ニ依リ保證人連署ノ證書ヲ差出スヘシ

第七條　專用栓ニヨリ給水ヲ使用セントスル者ハ第六號書式ニ依リ請求スヘシ
借地人又ハ借家人ニシテ地主若クハ家主所有ノ專用栓ニ依リ給水ヲ使用セントスル者ハ前項書式ニ依リ双方連署請求スヘシ

第八條　放任給水(專用、共用)使用者ハ人口牛馬數ニ異同ヲ生シタルトキハ第七號書式ニ依リ共都度屆出ツヘシ

第九條　計量給水(專用特ニ共用ヲ許サレタルモノ)使用者ニシテ認定推量ニヨリ給水ヲ受クル者ハ消費水量ニ異動ヲ生スヘキ事由ヲ生シタルトキハ第八號書式ニヨリ屆出ツヘシ

第十條　計量給水使用者ハ給水方法目的ヲ變更スヘキ事由ヲ生シタルトキハ第九號書式ニ依リ屆出ツヘシ

第十一條　給水使用者ニシテ量水器ヲ使用スル者ハ第十號書式ニ依リ保管證ヲ差出スヘシ

第十二條　私有量水器ヲ使用セントスル者ハ第十一號書式ニ依リ願出テ承認ヲ受クヘシ

第十三條　量水器ノ試驗ヲ請求セントスル者ハ第十二號書式ニ依リ請求スヘシ

第十四條　專用給水ノ使用ヲ廢止セントスルトキ又ハ給水中止其他ノ事故ニヨリ一時閉栓ヲ要スルトキハ第十三號書式ニ依リ屆出ツヘシ

第十五條　專用給水使用者住所ヲ移轉シ若クハ改氏名又ハ代替等ノ場合ハ第十四號書式ニ依リ屆出ツヘシ

第十六條　放任給水使用者ノ人口牛馬數栓數ヲ調査スル爲メ市吏員ヲ派出シタル場合ハ使用者ハ調査簿ニ記印ヲナスヘシ

第十七條　私設消火栓ヲ設置セントスルモノハ第十五號書式ニ依リ請求スヘシ
但第四條ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　演習ノ爲メ私設消火栓ヲ使用セントスル者ハ第十六號書式ニ依リ請求スヘシ

第十九條　給水栓ノ修繕、模樣替、撤去、移轉及增設等ノ工事ヲ施行セントスル者ハ第十七號書式ニ依リ請求スヘシ

第二十條　給水用具ノ管理者ヲ置カントスル者ハ第十八號書式ニ依リ屆出ツヘシ

第二十一條　撤去シタル給水管及給水用具ノ引渡ヲ受ケントスル者ハ第十九號書式ニ依リ請求スヘシ

第二十二條　給水管及給水用具ヲ賣買讓與セントスル者ハ第二十號樣式ニ依リ届出テ承認ヲ受クヘシ

工費皆納前給水管及給水用具ニ關スル權利義務ヲ其儘繼續セントスル者ハ第二十一號書式ニ依リ願出テ承認ヲ受クヘシ

第二十三條　給水費概算書及精算書ニ計上スヘキ給水管其他工事物品ノ單價及職工人夫賃等ハ毎年度ノ初メニ於テ之ヲ定メ年度内ハ變更セサルモノトス

但已ムヲ得サル必要生シタル場合ハ此限ニアラス

第二十四條　量水器据付位置變更ノ必要アリト認ムルトキハ使用者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

但其据付工費ハ使用者ノ負擔トス若シ給水用具ニ異動ヲ生スル場合ハ其部分ハ所有者ノ負擔トス

第二十五條　規則第四條第二項又ハ第四十條ニ依リ特ニ共用栓ニ據リ給水ヲ使用セントスル者ハ第二十二號書式ニ依リ願出テ鑑札及鍵ノ交付ヲ受クヘシ

第二十六條　公設共用栓ニ據リ給水ヲ使用セントスルトキハ第二十三號書式ニ依リ請求シ鑑札及鍵ノ交付ヲ受クヘシ

自己所有ノ土地又ハ家屋ニ住居スル者本條ノ請求ヲ爲サントスルトキハ併セテ規則第四十三條ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ鑑札又ハ鍵ヲ毀損亡失シ更ニ交付ヲ受ケントスル者ハ第二十四號書式ニ依リ請求スヘシ

但毀損ノ場合ハ現品ヲ提示スヘシ

第二十七條　共用給水使用者ニ交付スル鑑札ノ樣式左ノ如シ

（樣式ハ從前ノ通リ）

第二十八條　公設共用栓ニ依リ給水ヲ使用スル者規則第四十三條ノ資格ヲ有スルニ至リタルトキハ第二十五號書式ニ依リ届出ツヘシ

第二十九條　共用（公設、私設トモ）給水使用者住所ヲ移轉シ若クハ改氏名又ハ代替等ノ場合ハ第二十六號書式ニ依リ届出ツヘシ

第三十條　共用給水使用者亡失ニ係ル鑑札又ハ鍵ヲ發見シタルトキハ第二十七號書式ニ依リ届出ツヘシ

第三十一條　共用給水使用者給水ヲ廢止セントスルトキハ第二十八號書式ニ依リ門標鑑札及鍵ヲ添ヘ届出ツヘシ

第三十二條　規則第十五條ニ依リ給水使用者ニ交付スル標識ノ樣式左ノ如シ

公設共用	專用放任	專用計量
特別共用計量	私設共用	特別共用放任

第三十三條　給水工費ニシテ精算ノ上差額ヲ生シタル場合ハ即納ノモノニアリテハ竣工ノ上納付スヘキ殘額ヲ以テ差引ヲナス

第三十四條　私設共用栓ヲ設置セントスル者ハ使用者五名以上連署第二十九號書式ニ依リ願出ツヘシ

但規則第四十四條ニ該當スル者ハ此限ニアラス

第三十五條　私設共用栓設置ノ工費ニ關シテハ第四條ヲ準用シ給水使用請求又ハ廢止ニ關シテハ公設共用ノ規定ヲ準用ス

第三十六條　本市外ニ住居スル者ニシテ專用栓又ハ共用栓ニ依リ給水ヲ使用セントスル者

第三十七號及第三十一號書式ニ依リ願出ツヘシ

第三十七條　市外住居者ヨリ使用出願ニ係ル給水ハ共用栓ニ據ラシムルモノヲ除クノ外給水目的ノ如何ニ拘ラス總テ計量法ニ據ラシムルモノトス

第三十八條　市外給水ニ關シテハ給水栓ノ設置給水使用ノ請求廢止等一般ノ規定ヲ準用ス

第三十九條　停水處分ハ給水用具ヲ封印シ又ハ給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

第四十條　水道掛員ニ於テ職務執行ノ爲メ携帶スル提灯ハ左ノ圖式ニ據ル

（圖式從前ノ通リ）

第四十一條　此手續ニ於テ書式ヲ示サヽル者ハ適宜ノ書面又ハ口頭ヲ以テスルコトヲ得

附　則

第四十二條　從前ノ施行手續ハ此手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式

専用栓設置請求書

一　設置ノ場所

一　給水栓ノ數

一　給水ノ目的

一　使用者ノ營業又ハ職業

一　工費納付ノ方法

右給水栓設置相成度（給水工費ノ儀ハ保證人ニ於テ連帶責任ヲ以テ辨濟可致）此段請求候也

明治　年　月　日

秋田市　町　番地
請求者
秋田市　町　番地
保證人

秋田市長　殿

第二號書式

分岐專用栓設置請求書

一　本管所在ノ場所

一　分岐栓設置ノ場所

一　栓數

一　給水ノ目的
一　使用者ノ營業又ハ職業
一　工費納付ノ方法
右分岐給水栓設置ノ協議相整候ニ付テハ本栓ニ係ル加工費ハ請求者負擔可致候間承認相成度連署ヲ以テ請求候也

明治　年　月　日

秋田市　町　番地　秋田市
分岐栓設置請求者
秋田市　町　番地
本管所有者

秋田市長　殿

第三號書式

連合專用栓設置請求書

一　設置ノ場所
一　給水栓ノ數
一　給水ノ目的
一　使用者ノ營業又ハ職業
一　工費納付ノ方法
右給水栓設置相成度連署ヲ以テ請求候也

明治　年　月　日

秋田市　町　番地　秋田市
設置請求者
秋田市　町　番地
同

秋田市長　殿

第四號書式

承諾書

秋田市　町　番地ヘ給水栓布設ノ費用調書　月　日付ヲ以テ御通報ニ相成候ニ就テハ右工事御施行相成度候也

明治　年　月　日

秋田市　町　番地

秋田市長　殿

第五號書式

給水工費月賦證書

秋田市　町　番地設置給水栓
一　給水工費額金
一　割增金

計金

一　月賦期間　自明治　年　月
　　至明治　年　月　ヶ月賦

一　月賦額　一ヶ月金　　圓最終月

右給水工費ハ前記月割ヲ以テ毎月指定ノ期日ニ無相違納付可致連帶責任ノ保證人連署仍テ如件

明治　年　月　日

秋田市長　殿

第五號書式

給水工費分納證書

秋田市　町　番地設置給水栓

一　給水工費額金

一　割增金

計金

一　分納期間　自明治　年　月
　　至明治　年　月迄　回分納

秋田市　町　番地
設置請求者
秋田市　町　番地
保證人

右給水工費ハ左記分納ヲ以テ毎月指定ノ期日ニ無相違納付可致連帶責任ノ保證人連署仍テ如件

明治　年　月　日

秋田市　町　番地
設置請求者
秋田市　町　番地
保證人

秋田市長　殿

記

一金　第一回　年　月　日

一金　第二回

第六號書式

專用給水使用請求書

一　給水栓所在ノ場所

一　栓數

一　現住人口

一　通勤者ノ數

一　牛馬數

一　給水ノ方法

一　給水ノ目的
一　營業及職業
右給水使用致度候ニ付開栓相成度請求候也
明治　年　月　日　　秋田市　町　番地
使用者
秋田市　町　番地
給水栓所有者（借地又ハ借家ノ場合）
秋田市長　殿

第七號書式
給水人口牛馬數異動屆
一　給水栓所在地　秋田市　町　番地
一　現住人口　人　元　人
一　通勤者　人　元　人
一　牛馬數　頭　元　頭
右　月　日ヨリ異動有之候ニ付此段屆出候也
明治　年　月　日　　秋田市　町　番地
專用
共用　使用者

秋田市長　殿

第八號書式
消費水量異動屆
一　給水栓所在ノ場所
一　消費水量見積高　石　元　石
一　營業又ハ職業
一　增減理由並ニ其計算ノ基ク所
右消費水量異動御認定相成度候也
明治　年　月　日　　秋田市　町　番地
使用者
秋田市長　殿

第九號書式
給水方法目的變更圖
一　給水栓所在地　町　番地
一　專用放任　計量
一　營業用又ハ家事用
右從來　用ニ有之候處　ニ依リ　用ニ變更致候ニ付及御屆候也
明治　年　月　日

秋田市長　殿　　秋田市　町　番地

第十號書式　量水器保管証

一　量水器ノ種類
一　同　個數
一　内　徑

右正ニ保管致候若シ亡失又ハ毀損シタルトキハ指定ニ從ヒ修繕費又ハ價額全部辨償ノ責ニ任スヘク尚又給水停止ノ場合ト雖据付中ハ使用料納付可致候也

明治　年　月　日　　秋田市　町　番地　保管者

秋田市長　殿

第十一號書式　私有量水器使用承認願

一　量水器ノ種別
一　直徑
一　個數

右私有量水器使用致度試驗ノ上承認相成度候也

明治　年　月　日　　秋田市　町　番地　使用者

秋田市長　殿

第十二號書式　量水器試驗請求書

一　種別
一　直徑
一　個數

右作用ニ疑有之候ニ付試驗相成度請求候也

但取外ッシ及ヒ据付工費納付可致候

明治　年　月　日　　秋田市　町　番地　使用者

秋田市長　殿

第十三號書式　專用給水廢止（中止）届

一　給水栓所在ノ場所
一　給水方法

一　給水目的
右給水使用廢止中止候ニ付閉栓相成度及御屆候也
明治　年　月　日

秋田市　殿

給水使用者　秋田市　町　番地

第十四號書式

住所移轉、改氏名、代替屆

一　給水栓所在ノ場所
一　給水方法
一　給水目的
一　使用者前住所
一　改氏名
一　前使用者及代替ノ事由
右及御屆候也
明治　年　月　日

現住所　秋田市　町　番地
現在給水使用者

秋田市長　殿

第十五號書式

私設消火栓設置請求書

一　設置ノ場所　秋田市　町　番地
右私設消火栓設置相成度請求候也
明治　年　月　日

秋田市
請求者

秋田市長　殿

第十六號書式

私設消火栓使用請求書

一　消火栓所在地　秋田市　町　番地
右演習ノ爲メ　月　日午前後　時　分ヨリ　分間使用致度請求候也
明治　年　月　日

秋田市
請求者

秋田市長　殿

第十七號書式

修繕
增設
移轉
撤去
模樣替
給水栓工事請求書

一　給水栓所在地
一　工事ノ種類
右工事ヲ施工相成度請求候也
明治　年　月　日

秋田市　町　番地
請求者

秋田市長　殿

第十八號書式

給水用具管理届

一　給水栓所在ノ場所
右ハ所有者不在中（又ハ何々ニ付）左記ノ者ヲ以テ給水用具一切ニ關スル管理者ト相定メ候ニ付連署ヲ以テ及御届候也
明治　年　月　日

秋田市　町　番地
所有者

秋田市　町　番地
管理者

秋田市長　殿

第十九號書式

給水用具引渡請求書

一　元給水栓所在ノ場所
一　給水管並ニ給水用具壹式
右ハ秋田市水道給水規則第二十九條ニ依リ撤去相成リ候ニ付テハ御引渡相成度請求候也
但撤去費及未納ノ工費ハ一時ニ納付可致候
明治　年　月　日

秋田市　町　番地
所有者

秋田市長　殿

第二十號書式

給水用具賣買讓與届

秋田市　町　番地所在給水用具一式
右今般賣買讓與致度候ニ付承認相成度連署ヲ以テ此段及御届候也
明治　年　月　日

秋田市　町　番地
賣讓渡人

秋田市　町　番地
買讓受人

秋田市長　殿

第二十一號書式

給水用具繼續願

一　給水栓所在ノ場所　秋田市　町　番地

右給水用具ニ係ル權利義務トモ私ニ於テ繼續致度候ニ付承認相成度工費月賦納（分納）ニ關スル保證人連署ヲ以テ相願候也

明治　年　月　日

秋田市　町　番地
元請求人

秋田市　町　番地
繼續人

秋田市　町　番地
保證人

秋田市長　殿

第二十二號書式

特別共用給水許可願

一　現住人口
一　通勤者
一　牛馬數
一　現住土地又ハ家屋所有ノ有無
一　直接國稅（同居家族ノ稅額ヲ合算ス）
一　賃貸價額（現住土地又ハ家屋ノ）
一　給水ノ目的
一　使用者ノ營業

又ハ職業右專用給水可相受ノ處水使用致度相願候也

明治　年　月　日

秋田市　町　番地
使用者

秋田市長　殿

證

一　鑑札　壹枚
一　鍵　壹個
一　門標　壹枚

明治　年　月　日

右

第二十三號書式

公設共用給水請求書

ニ付特ニ公設共用栓ニ依リ給

一　現住人口
一　通勤者
一　牛馬數
一　現住土地又ハ家屋所有ノ有無
一　直接國稅額（同居家族ノ稅額ヲ合算ス）
一　貸貸價額（現住土地又ハ家屋ノ）
一　給水ノ目的
一　使用者ノ營業又ハ職業

右給水使用致度前記事項屆ヲ兼ネ請求候也

明治　年　月　日

秋田市　町　番地
使用者

秋田市長　殿

記

一　鑑札　壹枚
一　鍵　壹個
一　門標　壹枚

右

第二十四號書式

共用栓鑑札鍵再交付請求書

一　鑑札　枚
一　鍵　個

右毀損
亡失候ニ付再交付相成度請求候也

明治　年　月　日

給水使用者
右

秋田市長　殿

第二十五號書式

資格屆

一　直接國稅ノ種類及年稅額
一　貸貸價格月額

右及御屆候也

明治　年　月　日

秋田市
公設共用給水使用者　町　番地

秋田市長　殿

第二十六號書式

住所移轉、改氏名、代替屆

一　元住所
一　元氏名
一　前使用者及代替ノ事由

右移轉（改氏名、代替）ニ付鑑札更ニ御交付相成度及御屆候也

明治　年　月　日　　現住所　秋田市　町　番地
　　現在給水使用者

秋田市長　殿

第二十七號書式

鍵鑑札發見屆

一　鍵　　個
一　鑑札　　枚

右ハ曩ニ亡失ノ旨及御屆置候處　月　日發見致候ニ付現品相添及御屆候也

明治　年　月　日　　秋田市　町　番地
　　給水使用者

秋田市長　殿

第二十八號書式

共用給水廢止屆（公設、私設共）

一　鍵　　壹個
一　鑑札　　壹枚
一　門標　　壹枚

右給水廢止ニ付返納候也

明治　年　月　日　　秋田市　町　番地
　　使用者

秋田市長　殿

第二十九號書式

私設共用栓設置願

一　設置ノ場所

右ノ個所ヘ私設共用栓設置致度候ニ付調査ノ上許可相成度連署ヲ以テ相願候也

明治　年　月　日　　秋田市　町　番地
　　請求者

秋田市長　殿

第三十號書式　市外專用栓設置願

一　設置ノ場所
一　栓　數
一　給水ノ目的
一　使用者ノ營業又ハ職業

右給水使用致度候ニ付給水栓設置相成度工事費ノ儀ハ概算額ヲ以テ前納致竣工ノ上精算相成度此段相願候也

明治　年　月　日

郡　町　番地
村
設置請求者

秋田市長　殿

第三十一號書式　市外共用給水使用願

一　現住人口
一　通勤者
一　牛馬數
一　現住土地又ハ家屋所有ノ有無
一　直接國稅額（同居家族ノ稅額ヲ合算ス）
一　貸貸價額（現住土地又ハ家屋ノ）
一　給水ノ目的
一　使用者ノ營業又ハ職業

右公設共用栓ニ據リ給水使用致度相願候也

明治　年　月　日

郡　町　番地
使用者

秋田市長　殿

記

一　鑑札　壹枚
一　鍵　壹個
一　門標　壹枚

明治　年　月　日

右

第十二類　財務

（會計、物品及財產）

市役所計算記簿法

明治三十二年八月五日制定
明治四十五年四月　改正

第一條　當所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ金錢ノ出納ヲ整理ス但法令ニ別段ノ規定アルモノハ其定ム
ル所ニ依ル

一、現金出納原簿

本簿ニハ收入ニ屬スルモノヲ受ノ區ニ支出ニ屬スルモノヲ拂ノ區ニ記入シ現金ノ殘額ヲ明瞭ナラシムヘシ但總現金ニ對スル國稅、縣稅、市稅其他臨時寄託等ニ屬スルモノハ別ニ口座ヲ設ケ其內譯ヲ區分スヘシ

二、歲入簿

本簿ニハ豫算表ニ記載スル各款各科目毎ニ口座ヲ設ケ豫算額ヲ借方ニ收入金ヲ貸方ニ記入スヘシ

三、歲出簿

本簿ニハ豫算表ニ記載スル各款各科目毎ニ口座ヲ設ケ豫算額ヲ貸方ニ仕拂金ヲ借方ニ記入スヘシ

四、繼算支出整理簿

本簿ハ豫算表ニ記載スル各款ニ區分シ假拂額ヲ借方ニ精算額、返納額ヲ貸方ニ記入シ備考欄ニハ其假拂金精算濟年月日ヲ記載スヘシ

五、各地遞送金書留簿

本簿ニハ市外送金ノ際該金額ヲ記入シ領收證ノ到達シタルトキ其年月日ヲ順末欄ニ記

入スヘシ

六、臨時寄託及繰替内譯簿

本簿ニハ各種類毎ニ口座ヲ設ケ收入ニ屬スルモノヲ貸方ニ支出ニ屬スルモノヲ借方ニ記入スヘシ

第二條　帳簿ハ毎會計年度ヲ別テ之ヲ設置シ該年度ニ屬スル歳入出完結ニ至テ結算スルモノトス但一時取扱金ノ類ハ年度ノ經過ニ從ヒ現年度ヘ繰越モノトス尤補助簿ノ如キハ數年連續使用スルモ妨ケナシ

第三條　歳入ニ於ケル豫算ノ減額又ハ過誤納下戻歳出ニ於ケル豫算ノ減額又ハ過剰返納等ハ其金額事項トモ特ニ朱書シ其金額ハ次葉繰越ノトキニ於テ之レト反對セル區ノ合計ヨリ扣除スルモノトス

第四條　總テ帳簿ニ誤記アルコトヲ他日發見シ之レカ訂正ヲナストキハ其訂正ヲ爲スヘキ金額及事故共特ニ朱書シ其員額次葉繰越ノトキニ於テ之レト反對セル區ノ合計ヨリ扣除スルモノトス

第五條　總テ帳簿ニ誤記ヲナシ其際直チニ之ヲ發見セシトキハ其誤記セシ事項若クハ員額ノ正中ニ朱ノ二線ヲ横畫シ更ニ其上部ニ墨書スヘシ決シテ塗抹改竄スルヲ得ス

第六條　日計表ハ現金出納原簿及歳入出簿ニ依リ日々之ヲ調製シ收入役、助役ヲ經テ市長ノ閲覧ニ供スヘシ

現金取扱規定

明治三十年三月二十九日
告示乙第十四號

第一條　現金ハ總テ市役所執務時間内取扱フモノトス
但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第二條　一月四日十二月二十八日ハ緊急ノモノヲ除ク外現金ノ取扱ヲ停止ス

秋田市役所出納檢查規則

明治三十年五月十五日改正
明治四十四年十二月十五日改正

第一條　市役所出納例月檢查ハ毎月二十日（休日ナレハ其翌日）トシ臨時檢查ハ毎年一回トス

第二條　臨時檢查ノ場合市參事會員ノ立會ハ二名トス

第三條　市參事會ハ毎年ノ初ニ於テ第二條ノ立會委員ヲ互選スルモノトス

第四條　立會員ハ臨時檢查ニ立會ヲ爲シタル毎ニ其成績ヲ次回ノ市參事會ニ報告スルモノトス

市役所物品管理及受授手續

第一條　市役所諸物品ハ所用ノ區分ニ依リ各係ニ於テ之ヲ主管ス但市長助役ノ用フル物品ハ庶務係之ヲ管理ス

第二條　各係主管ノ物品ハ各係ニ於テ帳簿ニ登記シ其加除增減ヲ明ラカニスヘシ

第三條　各係互ニ共用スル物品ハ各其主擔ノ係ニ於テ之ヲ監視シ其取締ヲ爲スヘシ

第四條　各係ノ主管物品ヲ各係互ニ貸借スルトキハ其受授ヲ明ラカニスヘシ

第五條　市長助役及各係員ニ於テ物品ヲ需用シ又ハ之ヲ返納セントスルトキハ收入役ハ豫メ第一二三號樣式ノ帳簿ヲ製置シ其受授ヲ爲スヘシ

第六條　市費ニ屬スル物品ハ總テ命令ニ依リ收入役ニ於テ新調シ各主管者ニ交付スルモノトス

第七條　總テ物品ハ各主管者ニ於テ保管ヲ爲スヘシ但主管者未定若クハ交付前ニ屬スル物品ハ收入役之ヲ保管スルモノトス

第八條　各主管者ハ豫メ適宜ノ帳簿ヲ製置シ其出納ヲ明カニスヘシ

第壹號

受入年月日	品目	摘數	要旨	受取者姓名印	拂出年月日	摘數	事由	拂出

様式第弐號

年月日	品目	箇數	要旨	需用者検印

様式第参號

年月日	事由	買入代價	受拂		殘		需用者検印
			個數	個數	個數		

郵便切手保管及出納手續　明治三十四年十二月五日

第一條　市役所ニ於テ使用スル郵便切手（端書ヲ包含ス）ノ保管及出納ハ此手續ニヨリ取扱フヘシ

第二條　總テ郵便切手ハ收入役ニ於テ保管ノ責ニ任シ物品會計主任ヲシテ出納セシムヘシ
但郵送ニ要スル爲メ前渡ヲ受ケタル郵便切手及返信料前納ノ郵便切手ハ庶務係長之ヲ保管シ受付主任ヲシテ之ヲ出納セシムヘシ

第三條　郵送ニ要スル郵便切手ハ凡ソ十日毎ニ豫算ヲ以テ庶務係長ニ於テ前渡ヲ受ケ置クヘシ

第四條　郵送ヲ要スル發送文書（電報ヲ包含ス）ハ受付主任ニ於テ退廳時限迄之ヲ取纒メ郵便切手出納簿（第一號樣式）ニ記入ノ上貼付發送スヘシ

第五條　各係ニ於テ返信料前納ノ郵便切手ヲ受ケタルトキハ受授簿（第二號樣式）ニ記入ノ上受付主任ニ交付シ受領ノ印ヲ徵シ置クヘシ

第六條　受付主任ニ於テ前條ノ切手ヲ出納シタルトキハ出納簿ニ朱記スヘシ

第七條　退廳後臨時郵送發電ノ用ニ供スル爲メ當宿直ニ適宜郵便切手ヲ庶務係ヨリ配付シ置クヘシ

第八條　當宿直ニ於テ臨時郵送發電ヲ爲シタルトキハ當宿直郵便切手受拂簿（第三號樣式）ニ記入シ翌日受付主任ニ差出シ補塡シ受ケ置クヘシ

第九條　受付主任ハ前月分ノ精算書ヲ調製シ庶務係及會計係ヲ經テ市長ニ呈出スヘシ

第一號樣式

郵便切手出納簿

月日	個所摘要	受拂	殘

第二號樣式

返信料郵便切手受授簿

（各係口分）

月日	摘要	端書	郵便切手 壹錢	郵便切手 參錢	郵便切手 拾錢	係員認印	受領印

第三號樣式

當宿直郵便切手受拂簿

（口分）

月日	摘要	受	拂	殘

市製作品及不用品賣却規定　明治二十九年四月三十日定

第一條　市製作及不用品等ハ總テ市參事會ニ於テ其價額ヲ豫定シ公入札ヲ以テ賣却スルモノトス但不用品ニシテ其價額五圓未滿ノモノ及製作品ハ時機ニ依リ公入札ニ附セスシテ賣却スルコトヲ得

第二條　公入札ニ附セサル物品等ハ總テ市參事會ニ於テ其價額ヲ豫定シテ之ヲ賣却スルモノトス

第三條　製作品又ハ不用品等ヲ賣却スルニハ入札保證金ヲ徵スルモノト之ヲ徵セサルモノト二種トス其區別ハ市參事會之ヲ定ム

第四條　入札人ハ左ノ各項ヲ心得ヘシ

一　入札保證金ヲ徵スルモノハ其金額ヲ揭示スヘシ

一　入札ヲ爲ス（人札保證金ヲ徵スルモノハ該金）モノハ現品熟覽ノ上開札時限前ニ第一號書式ニ依リ入札（同）

一　入札ハ差出ノ順序ニ依リ番號ヲ記入シ入札人ノ面前ニ於テ開封スヘシ

一　落札ハ高札ヲ以テ定ムヘシト雖モ若シ價額不相當ト認ムルトキハ落札セサルコトアルヘシ

一　高札ノ金額同一ナルモノアルトキハ更ニ其入札者ヲシテ再入札セシメ尙ホ同一ナルトキハ番號ノ順次ニ依リ先キナルモノヲ以テ落札トス

一　落札ヲ達シタルトキハ即日第二號書式ノ請書ヲ差出現金ハ指定ノ日ニ上納スヘシ但保證人ハ市内現住者ニシテ身元確實ナル者ナルモノヲ要ス

一　落札ヲ達シタルモ指定ノ期日ニ請書ヲ差出サヽルカ又ハ代金ヲ上納セサル者ハ該入札ヲ取消シ（入札保證金アルモノハ該金ヲ沒收ス）自後一週年以内入札人又ハ保證人タルヲ許サス

一　入札保證金ハ落札人ノ外ハ總テ返付スヘシ

一　入札書式ニ違ヒ又ハ開札ニ當リ本人若クハ代人出頭セサルトキハ該入札ヲ無効トス

第一號書式

表

何々入札　何　某　裏　印

何々拂下入札書　（甲紙半紙）

一何々　何　程

此代金何圓　但何程ニ付金何錢

右公告ニ基キ現品及製作不用物品賣却規定熟覽ノ上其事項ヲ承認シ前記ノ代金ヲ以テ拂受度入札候事相違無之候也

何縣何郡市何町村何番地
身分　氏　名　印

年　月　日

秋田縣秋田市役所
御中

第二號書式

請　書

印　印紙

印紙ハ金高ニ應シ貼用スヘシ

一金何程　落札高
（外金何程）　（入札保證書）

右ハ何々拂下ニ付入札仕候處落札御達相成敬承致候就テハ前書金額（入札保証金アルモノハ差引殘金ヲ掲ク）御指揮ニ隨ヒ無相違上納ノ上物品引取可申萬一違約致候節ハ入札保證金沒收ノ上（入札保証金ナキモノハ上ノ九字ヲ除ク）入札御取消相成候トモ聊カ苦情無之依テ保證人連署約定請書如件

年　月　日

何縣何郡（市）町（村）番地
落札人　何　ノ　誰　印
同
保證人　何　ノ　誰　印

秋田縣
秋田市長宛

秋田市工事及物品請負規則

明治三十六年十一月二十七日
秋田市告示乙第一一號

第一條　工事及物品ノ請負ハ總テ公入札ニ附ス左ノ場合ニ於テハ市參事會ノ決議ニ依リ指名入札又ハ隨意契約ヲ以テ請負ヲ命スルコトヲ得

一　特ニ技術ヲ要スル工事及物品若クハ專賣ニ屬スル物品等ニシテ直接購入ヲ要スル時

二　公入札ニ附スルモ入札人ナキ時

三　公入札ニ附シ再度豫定價額ヲ超過シタル時

四　緊急ニシテ公入札ニ附スルノ暇ナキ時又ハ付帶工事等ニシテ特ニ請負ヲ命スルノ必要アル時

五　豫定價額五拾圓未滿ノ工事又ハ見積價額三拾圓未滿ノ物品ヲ調達スル時

第二條　豫定價額ハ市參事會之ヲ定ム

第三條　公入札ハ期日ヨリ三日以前掲示場及新聞紙官報等ニ便宜廣告シ且ツ其廣告ニハ左ノ要項ヲ記載ス

一　工事ノ種類箇所又ハ物品ノ種類數量及納付ノ箇所

二　請負期限

三　入札保證金額及請負保證金額

四　入札及開札ノ場所幷ニ日時

第四條　保證金ハ左ノ制限ニ依ル

一　入札保證金ハ各自入札價格百分ノ五以上

二　請負保證金ハ各自適負價格百分ノ十以上
但場合ニ依リ百分ノ七迄輕減スルコトアルヘシ
第五條　豫定價額又ハ請負金額百圓未滿ナルトキハ入札保證金又ハ請負保證金ヲ徵セサルコトアルヘシ
第六條　保證金ハ通貨又ハ國債證書又ハ市參事會ノ指定スル債券株券其他ノ預リ金券ヲ以テ納付スヘシ但國債證書債券株券等ハ時價ノ一割引ヲ以テ其保證價額トス
第七條　入札人ハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ル
一　二ケ年以來引續キ現ニ該業ノ請負ニ從事シタルモノ
二　現ニ直接國稅三圓以上ヲ納ムルモノ本條資格證明書ハ官衙又ハ市町村長ノ證印ヲ受ケ差出スヘシ
第八條　公入札ハ左ノ手續ニ據ル
一　入札人ハ工事設計仕樣書圖面及現場又ハ物品調書見本等ヲ熟覽シ第一號書式ニ依リ封書ヲ以テ入札スヘシ但入札書中加除訂正シタル處ハ必ス押印スヘシ
二　入札人ハ保證金ニ納付書ヲ添ヘ當所現金取扱所ヘ差出シ預リ證ヲ得テ之ヲ入札ト共ニ係員ヘ提出スヘシ
三　開札ハ市長又ハ助役又ハ參事會員其他係員二名以上立會入札人ノ面前ニ於テ之レヲ執行ス
四　開札後ハ違算誤記其他何等ノ事故アルモ引換又ハ訂正スルコトヲ得ス
五　入札ハ合金高ヲ以テ計算ス故ニ內譯金額ニ違算脫落等發覺スルモ合金ヲ加除スルコトヲ得ス
第九條　入札ハ最低價ヲ以テ落札トス若シ同價額ノ入札者二名以上アルトキハ其入札者ヲシテ直チニ再度ノ入札ヲナサシム猶ホ同價額ナル時ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
最低價ノ入札ト雖トモ不相當ト認ムル時ハ其入札ヲ取消シ更ニ入札セシム此場合ニ於テハ取消シタル入札者ヲ之ニ加ヘサルモノトス
第十條　最低價ノ入札ニシテ豫定價額ニ超過シタル時ハ更ニ日時ヲ定メ入札ニ付シ又ハ直チニ其入札人ヲシテ再入札セシム
第十一條　左ノ入札ハ無效トス
一　入札書式ニ違背シ要領ヲ得サルモノ又ハ金額明瞭ナラサルモノ
二　入札人又ハ其代理人開札ノ場合ニ立會ハサルモノ
三　代理人ニシテ委任狀ヲ提出セサルモノ
四　入札保證金指定ノ額ニ達セサルモノ
第十二條　落札者ノ入札保證金ハ請負契約後其他ノ分ハ開札後直チニ之ヲ還付ス但シ落札者ハ入札保證金ヲ以テ請負保證金ニ差繼クコトヲ得
第十三條　落札者ハ請負ヲ命セラレタル日ヨリ三日以內ニ第二號書式ノ請負契約書及第三號書式ノ內譯書ニ請負保證金ヲ添ヘ提出スヘシ
但內譯書中單價不相當ト認ムルトキハ更正ヲ爲サシムルコトアルヘシ
第十四條　前項ノ契約書ニハ設計書ノ謄本及圖面添付ヲ要ス但シ場合ニ依リ原圖ニ記名捺印セシメ之ヲ代用スルコトアルヘシ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ落札ヲ無効トス入札保證金ヲ以テ違約ニ係ル辨償金ニ充テ之ヲ還付セス

一　落札者自己ノ都合ニ依リ取消ヲ請フ時

二　請負ヲ命シタルモ故ナク指定ノ期日内ニ契約ヲ締結セサル時

三　不正ノ行爲ニ依リ落札トナリタル時

第十六條　第九條ノ同價ノ入札人ニシテ再入札若シクハ抽籤ニ加ハラサルトキハ入札保證金ヲ以テ違約ニ係ル辨償金ニ充テ之ヲ還付セス

第十七條　請負人ハ本市現住者ニシテ身元確實ナルモノヲ以テ保證人ト爲スヘシ若シ身元確實ナラスト認ムルトキハ更ニ選定セシムルコトアルヘシ

但請負事件ニ依リ市内現住者ニ限ラサルコトヲ得

第十八條　請負人ハ請負事件ノ全部若クハ一部ニ付キ豫シメ相當代理人ヲ定メ當所ノ認定ヲ受ケ本人差支ノ場合之カ所辨ヲ爲サシムルコトヲ得

第十九條　工事請負人又ハ代理人ハ工事中常ニ現場ニ出張シ請負ニ關スル一切ノ事ヲ所辨スヘシ

第二十條　工事請負人ハ施行順序等渾テ係員ノ指揮命令ニ從フヘシ又竣功日數ニ對シテハ相當ノ工程ヲ怠ル可カラス

第二十一條　工事請負人ハ使役スル職工人夫等ノ行爲ニ對シ一切其責ニ任スヘシ若シ職工人夫等工事ニ障害アリト認ムルトキハ之カ使役ヲ停止シ又ハ退去セシムルコトアルヘシ

第二十二條　工事設計中在來ノ材料ヲ使用シ又ハ特ニ物品若クハ材料ヲ交付シ使用セシムル場合共授受又ハ交付濟ノ後ハ總テ請負人ノ保管ニ屬スヘキヲ以テ該品ヲ紛失毀損シタルトキハ其損害ハ請負人ノ負擔トス

第二十三條　工事ニ用ユル材料ハ使用ノ場所ニ於テ主務吏員ノ檢査ヲ經ルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス水中又ハ地中ノ工事其他施行後出來形ノ認メ難キモノハ其着手ニ際シ特ニ主務吏員ノ檢査ヲ受クヘシ若シ檢査ヲ受ケズシテ着手シタル時ハ事後ト雖トモ檢査ヲナス可シ但檢査ノ爲メ要シタル費用ハ請負人ノ負擔トス

第二十四條　前條ノ場合ニ於テ材料ノ交換ヲ命ジ又ハ工事ノ改築ヲ命スルモ應セサル時ハ當所ニ於テ之ヲ施行スルコトアル可シ其費用ハ請負人ノ負擔トス

第二十五條　工事ニ用ユル材料又ハ調達スヘキ物品ニ付テハ場合ニ依リ見本ヲ出ダサシム其費用ハ請負人ノ負擔トス

第二十六條　工事ニ要スル諸機械、丁張、其他小屋、足場及材料運搬、置場等ニシテ設計書ニ掲ケザル費用ハ總テ請負人ノ負擔トス

第二十七條　請負人正當ノ理由ナクシテ請負期限ヲ失シタルトキハ違約ニ係ル損害辨償金トシテ一日ニ付請負金高千分ノ五以内ノ割合ヲ以テ還延シタル日數ニ對スル金額ヲ納メシムヘシ

第二十八條　請負金ハ請負義務ノ完了後之ヲ下付スヘシト雖トモ請負人ノ都合ニ依リ工事竣功前又ハ物品完納前ニ於テ其既成若クハ既納部分ニ對シ請負金ノ內渡ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其部分ニ對スル價額ノ十分ノ八以內ノ金額ヲ支拂フベシ

但內渡金額ノ制限及下渡ノ回數ハ契約ノ都度之ヲ定ム

第二十九條　本市ノ都合ニ依リ請負契約前又ハ契約後工事又ハ物品ヲ變更シ中止シ若クハ廢止シタル時ハ請負人ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス但請負契約後ニ在ツハ出來形ニ對スル工事又ハ物品代金ハ調査ノ上相當ノ金額ヲ下渡スヘシ

第三十條　請負契約後工事又ハ物品ヲ變更シタルカ爲メ請負金額ニ差異ヲ生シタルトキハ請負保證金ヲ增減シ追徵若クハ還付ヲ爲スヘシ

但本條ノ場合ニ於テ期限ヲ伸縮スルトキハ更ニ請書ヲ徵スヘシ

第三十一條　請負契約ノ上ハ工事着手ノ前後ヲ問ハス三十日以上工事全部ノ中止ヲ命シタルトキハ請負人ハ請負契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第三十二條　請負人ハ工事ニ用ユル材料ヲ完納シ又ハ工事ノ竣功ヲ爲シタルトキハ直チニ屆書ヲ提出スヘシ

前項屆出ニ依リ檢査ヲ行フ時ハ其日時ヲ請負人ニ告知スルヲ以テ請負人ハ檢査ニ關スル諸準備ヲ爲シ必ス立會フヘシ若シ立會ハサルトキハ其檢査ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス但準備ニ要スル費用ハ請負人ノ負擔トス

第三十三條　工事又ハ物品ノ本檢査未濟中ニ係ル損害ハ渾テ請負人ノ負擔トス

但避クヘカラサル事變ニ係ル損害ハ其幾分ヲ補助スルコトアルヘシ

擔保期限ヲ定メタルモノハ本檢査濟ノ後ト雖トモ其期間ハ前項ニ同シ

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ請負契約ヲ解除シ請負保證金ハ違約ニ係ル損害辨償金ニ充テ之ヲ還付セス

一　故ナク契約ノ期日ニ着手セサルトキ

二　第十七條第十九條第二十條第二十一條第二十五條第二十九條ノ規定ヲ履行セサルトキ

三　第二十二條第二十三條第二十四條第二十七條第三十條ノ義務ヲ了セサルトキ

四　請負人故ナク召喚ニ應セサルトキ

五　請負人契約ノ解除ヲ請フトキ

第三十五條　請負契約解除ノトキハ其命令書ヲ本人若クハ其家族ニ交付シ又ハ之ヲ公示スルモノトス此場合ニ於テ工事既成部分又ハ物品既納部分ヲ檢定スヘキニ付請負人及保證人ハ必ス立會フヘシ若シ立會ヲ拒ミ又ハ無故立會ハサルトキハ檢定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ請負保證金ヲ還付ス

一　工事竣功又ハ物品完納檢査濟ノ手續ヲ了シタルトキ

二　第二十九條ニ依リ請負契約ヲ解除シタルトキ

三　第三十一條ニ依リ契約ノ解除ヲ許可シタルトキ

四　擔保期限アルモノハ滿期檢査濟ノトキ

五　請負人死亡シタルトキ

第三十七條　請負契約解除ノ場合ニ於テ其工事ノ出來セルモノ又ハ材料等ノ現場ニ搬出セルモノニシテ設計ニ適合シタルモノハ之ニ對シ工費又ハ代金ヲ下付スルコトアル可シ

第三十八條　請負契約解除ノ場合ニ於テ請負人ヨリ徵收スヘキ金額アルトキハ工費又ハ請負保證金ヨリ控除スルモノトス

第三十九條　第三十四條ニ依リ契約ヲ解除セラレタルモノハ爾後三ケ年當市ノ工事及物品ノ請負人又ハ請負人ノ代理者若シハ請負保證人トナルコトヲ得ス

第四十條　指名入札又ハ隨意契約ヲ以テ請負ヲ命スル場合ハ此規則ヲ準用ス

（第一號書式）

一金　何　程

但秋田市何工事（何品外何種）入札金

此入札保證金何程

右明治　年　月　日入札公告ニ非キ秋田市工事及物品請負規則ニ據リ入札仕候也

何縣何郡市何町村何番地

何　某　印

秋田市長　宛

（用紙半紙全紙）

（第二號書式）

請負契約書

印紙（金高ニ應シ貼用ス可シ）

一金何程

要　目

工事種類（物品種類）何々工事（又ハ何々）

施行個所（納付ケ所）何郡市何町村大字何字何

請負金高

請負保證金何　程

工事方法（納付方法）設計圖面及內譯ノ通

施行期限（完納期限）自何年何月何日　至何年何月何日數何日間

擔保期限　竣工檢查ノ日ヨリ記算シ向ヒ數何日間

右明治何年何月何日秋田市告示第何號秋田市工事及物品請負規則ヲ遵守契約候所確實也

依テ爲後證署名捺印ス

何縣何郡市何町村何番地

工事請負人　何　某　印

年　月　日

何縣何郡市何町村何番地

右保證人　何　某　印

（第三號書式）

工事請負契約擔當者

職　氏　名　印

何々工事（又ハ物品調達）見積書

一金何　圓

請負金總額

内譯

摘要	名稱	寸法	數量	單價	小計

右之通

明治　年　月　日

秋田市長宛

右請負人

何　某印

秋田市貸地規則　明治四十年三月五日市會決議

第一條　本市所有又ハ使用權ヲ有スル地所ノ貸付ハ總テ此規則ニ依ル

第二條　貸付ノ年限ハ十ケ年以内トス

但年限ヲ繼續スルコトヲ得

第三條　年限内ト雖ドモ市ニ於テ必要ノ場合ハ返地セシムルコトアルベシ

但此場合ニ於テハ相當ノ手當ヲ給スルモノトス

第四條　貸借ニ關スル契約ハ市參事會之ヲ決定ス

第五條　貸地料ハ左ノ等級ニ依ル其地所ノ等級ハ市參事會之ヲ決定ス

一等　一ケ年一坪　金拾八錢

二等　同　金拾五錢

三等　同　金拾貳錢

第六條　借地人ハ保證人二名以上連署ヲ以テ別紙樣式ノ借地證書ヲ提出スヘシ

第七條　保證人ハ市公民ニシテ所得稅又ハ國稅營業稅ヲ納ムルモノニ限ル

第八條　貸地料ハ借地人ヨリ徵收シ若シ借地人ニ於テ怠納スルトキハ保證人ヨリ徵收ス

第九條　借地料ハ一ケ年分ヲ四期ニ分チ各期ノ始ニ於テ徵收ス

但一期間ニ異動ヲ生スルモ既納ノ分ハ返付セス

第十條　借地人代替轉居改氏名等異動アルトキハ速カニ屆出ツヘシ

第十一條　借地人ハ借地ヲ轉貸セントスルトキハ市參事會ノ認許ヲ受クヘシ

第十二條　借地人貸地料ヲ怠納シ又ハ不都合ノ所爲アルトキハ年限内ト雖トモ返地セシムルコトアルヘシ

但此場合ニ於テ市ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第十三條　借地人返地又ハ滿期ノ場合借地内ニ在ル物件ヲ取拂ハサルトキハ市ニ於テ之ヲ取拂フモノトス

但之レニ要スル費用ハ借地人ノ負擔トス

様式

印紙

借地證書

秋田市何町何番地何號

一宅地反別何程

此借地料一ケ年金何程

但一坪ニ付金何程

一借地年限ハ本月ヨリ明治何年何月マテ何十ケ年トス

一借地料ハ毎年四月七月十月一月ノ四ケ度ニ分納ス

右ノ外秋田市貸地規則ハ勿論隨時ノ命令ヲ堅ク遵守可致仍テ借地證書差出候也

明治何年何月何日

秋田市長殿

借地人　住所　氏名　印

保證人　住所　氏名　印

但此場合ニ於テ市ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第十三條　借地人返地又ハ滿期ノ場合借地内ニ在ル物件ヲ取拂ハシメトキハ市ニ於テ之ヲ取拂フモノトス

但之レニ要スル費用ハ借地人ノ負擔トス

樣式

印紙　　借地證書

秋田市何町何番地何號

一宅地反別何程

此借地料一ヶ年金何程

但一坪ニ付金何程

一借地年限ハ本月ヨリ明治何年何月マテ何十ヶ年トス

一借地料ハ毎年四月七月十月一月ノ四ヶ度ニ分納ス

右ノ外秋田市貸金規則ニ勿論隨時ノ命令ヲ堅ク遵守可致仍ニ借地證書差出候也

明治何年何月何日

秋田市長殿

住所　借地人　氏名　印

住所　保證人　氏名　印

住所　保證人　氏名　印

第十二類　雜則

秋田市役所代書人内規　明治四十五年一月十二日制定

一、代書人ヲ志願スルモノアルトキハ其身元等ヲ調査シ適當ト認ムルモノハ二ケ年ヲ限リ之ヲ許可スヘシ但繼續許可スルコトヲ得

二、代書料ハ美濃紙一枚ニ付三錢五厘半紙一枚ニ付貳錢五厘トス但書式ニ違ヒ受理セラレサルモノ又ハ書損ノ分ニ對シテハ代書料ヲ請求スルコトヲ得ス

三、代書人ハ市民ノ便宜ヲ計ルカ爲之ヲ置キタルモノナルヲ以テ能ク其意ヲ体シ常ニ市民ニ接スルニ懇切誠實ヲ旨トスヘシ

四、代書人ノ許可ヲ受ケタルモノハ直ニ左ノ誓約書ヲ提出スヘシ

誓　約　書

明治何年何月ヨリ同何年何月迄二ケ年間御所代書人御許可相成候ニ付テハ左ノ各項堅ク相守リ可申候

一、御所ト市民ノ便宜ヲ計リ殊ニ市民ニ對シテハ常ニ懇切誠實ヲ旨トスルコト

一、代書料ハ美濃紙一枚ニ付三錢五厘半紙一枚ニ付貳錢五厘トシ書損及違式等ノ爲メ受理セラレサルモノ、書料ハ請求セサルコト

一、以上ノ外御所ノ内規ヲ遵守シ若シ不都合アルトキハ隨時許可ヲ取消サルヽモ差支ナキコト

右誓約候也

年　月　日

住所

氏名　印

市役所宛

五、不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

時鐘規則

明治三十一年七月十五日市會決議
明治三十一年八月二十五日秋田市告示第十號

第一條　鐘樓ノ位置ハ縣公園内トス

第二條　時間ハ秋田郵便電信局ノ時計ヲ標準トシ晝夜誤謬ナキヲ要ス

第三條　報時擔當人一名ヲ置キ手當金ヲ支給ス

第四條　擔當人報時ヲ怠リ又ハ時刻ヲ誤リタルトキハ市制第六十四條ニ依リ懲戒處分ヲ爲ス

鐘撞人服務心得

第一條　鐘樓ハ晝夜毎一時ニ之ヲナシ正當ノ事由ナクシテ其時報ヲ懈リ又ハ休止スルコトヲ得ス

第二條　鐘樓ハ時報ノ外之ヲナスコトヲ得ス雖モ非常信號ノ場合ニ限リ之ヲナスコトヲ得

第三條　鐘樓ハ專ラ時間ヲ正確ニシ其間遲速ナカラシムルヲ要ス

第四條　鐘樓及器械ノ修繕ヲ要スルトキハ其都度當所ニ請求スヘシ

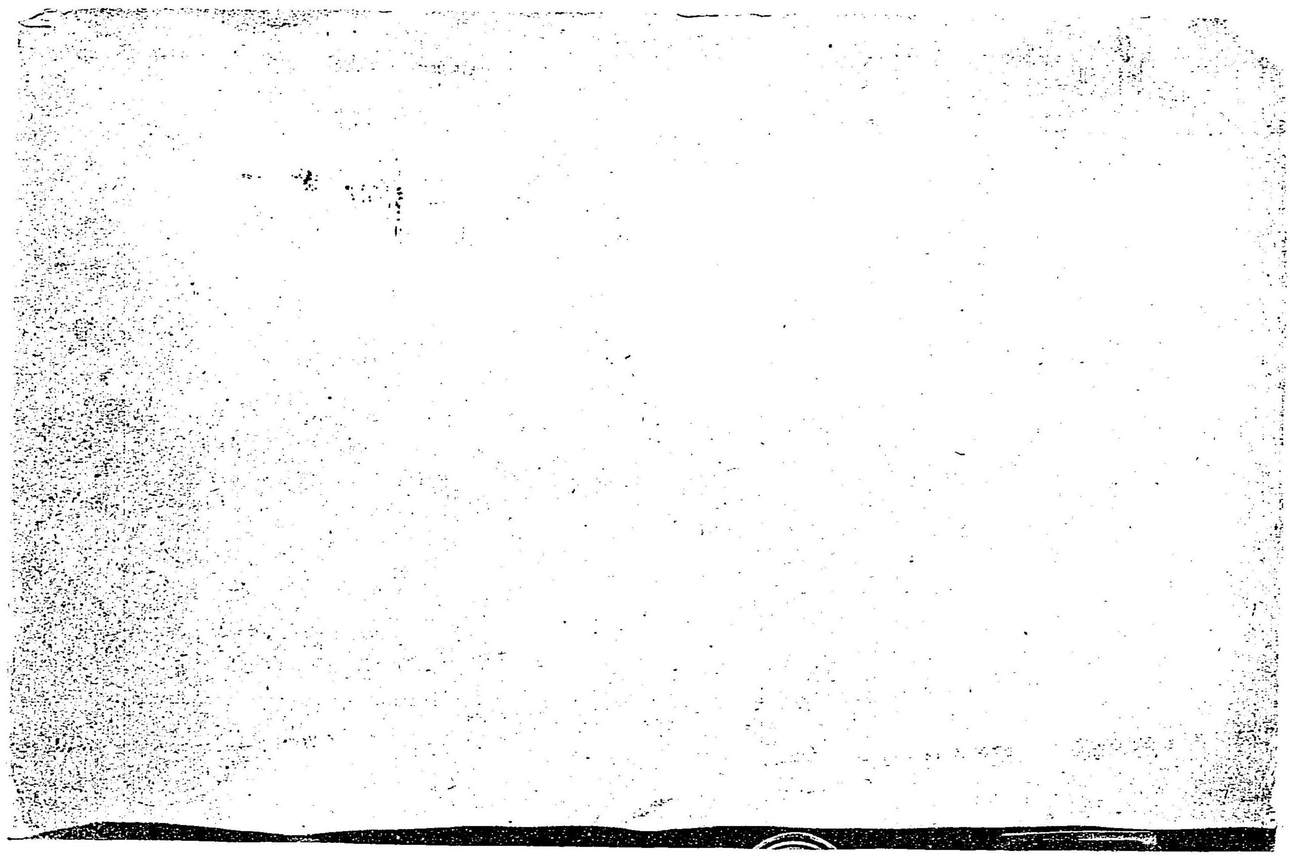
明治四十五年五月

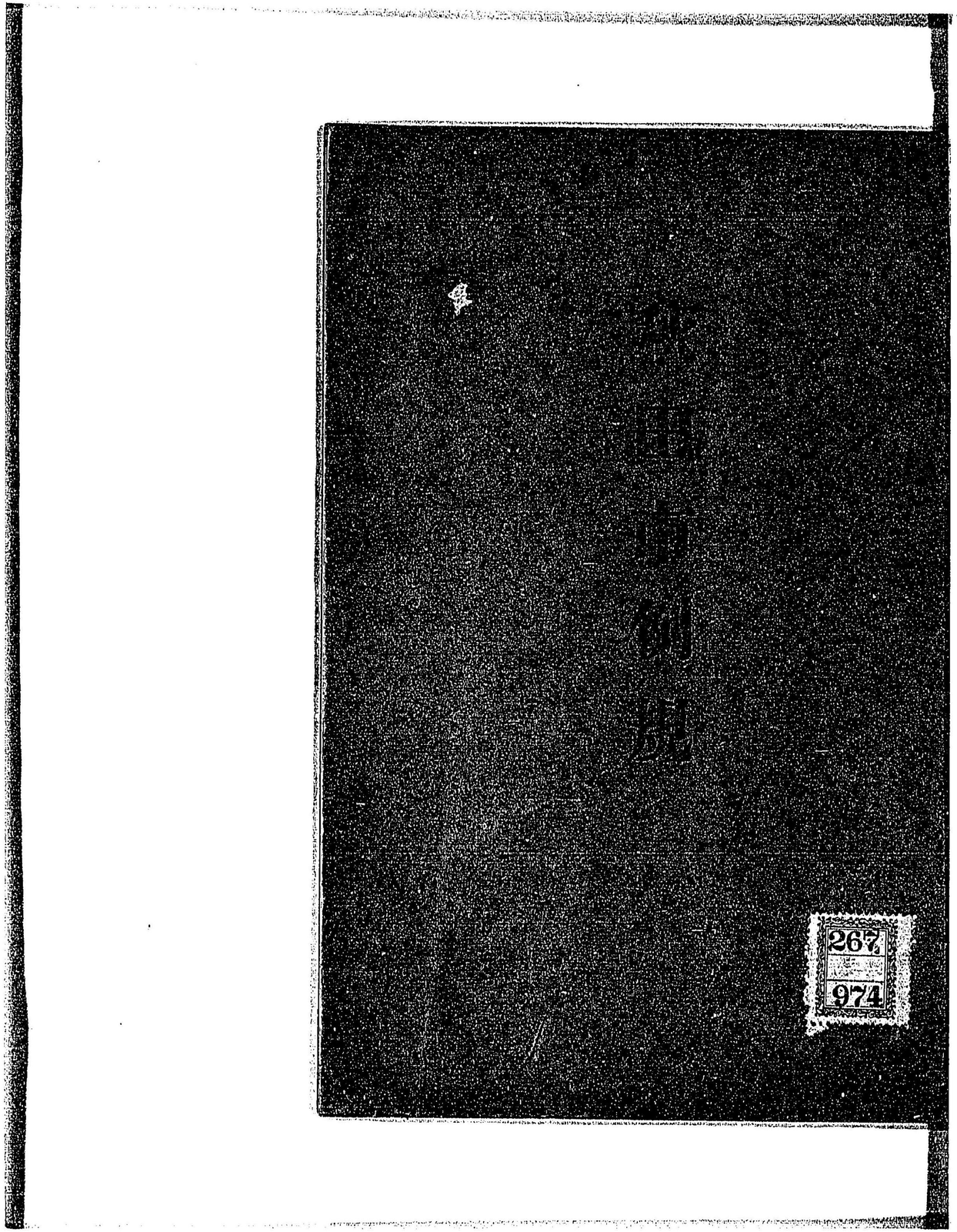
秋田市役所

秋田縣秋田市大町一丁目廿八番地

印刷所　発巳活版所

267
974




267
974

031166-000-5

CZ-1113-21

秋田市例規

秋田市役所

M45

BBD-0037